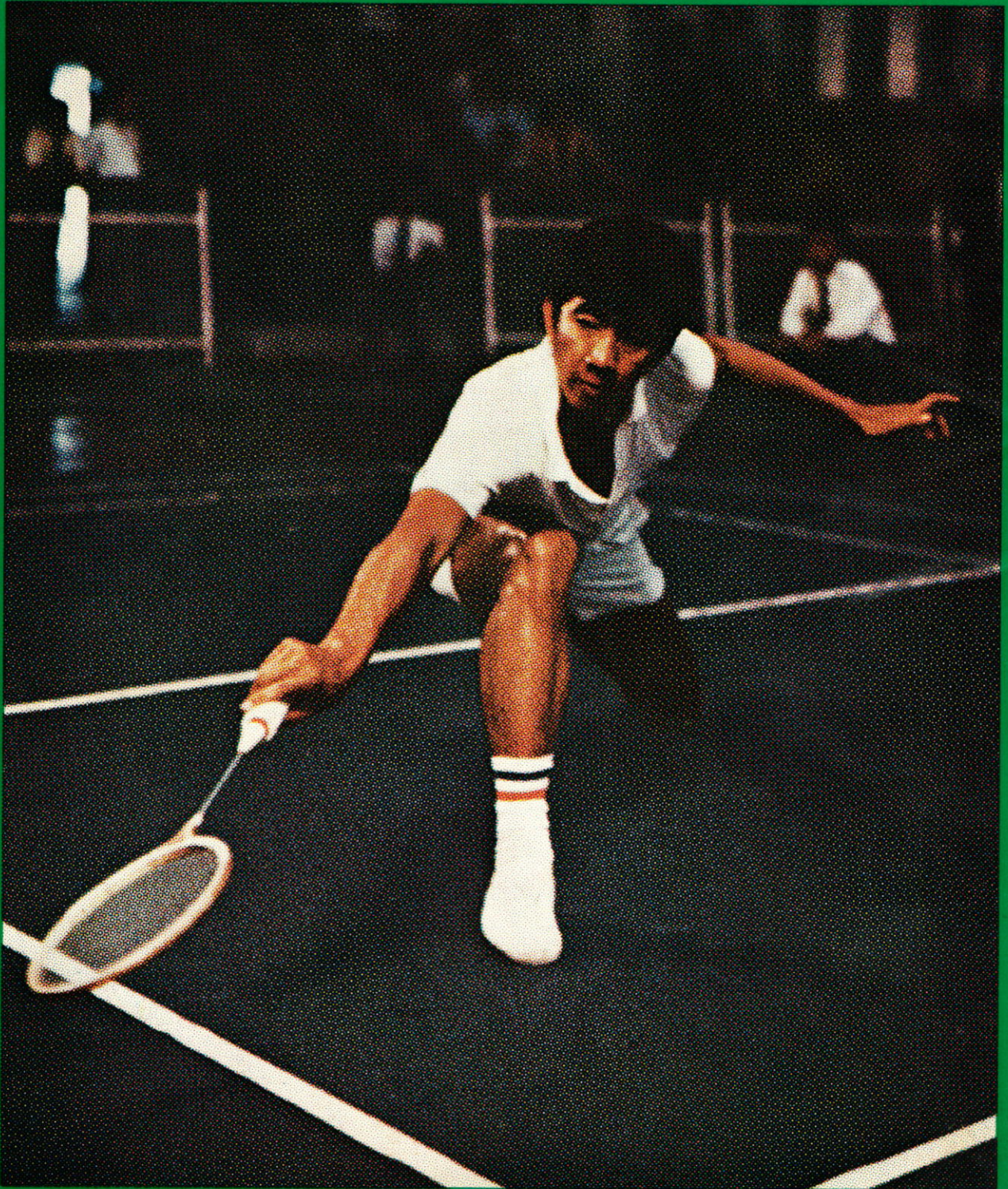


日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.19
1971
march



反撓力 抜群！

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE



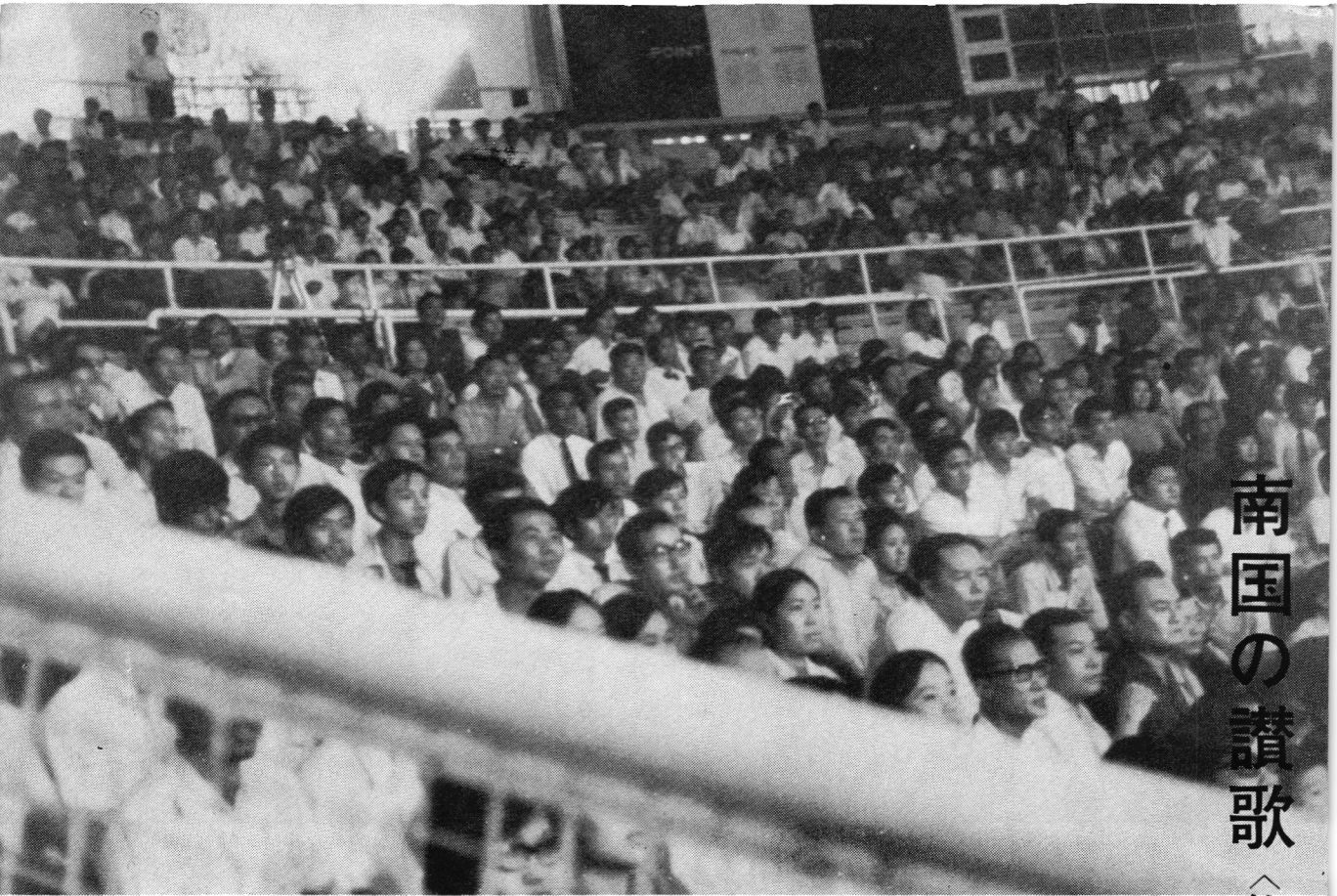
- シャフトの反撓力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用
- 小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群



サリク

株式会社 諸江製作所

東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話 (377) 4401 (代表)



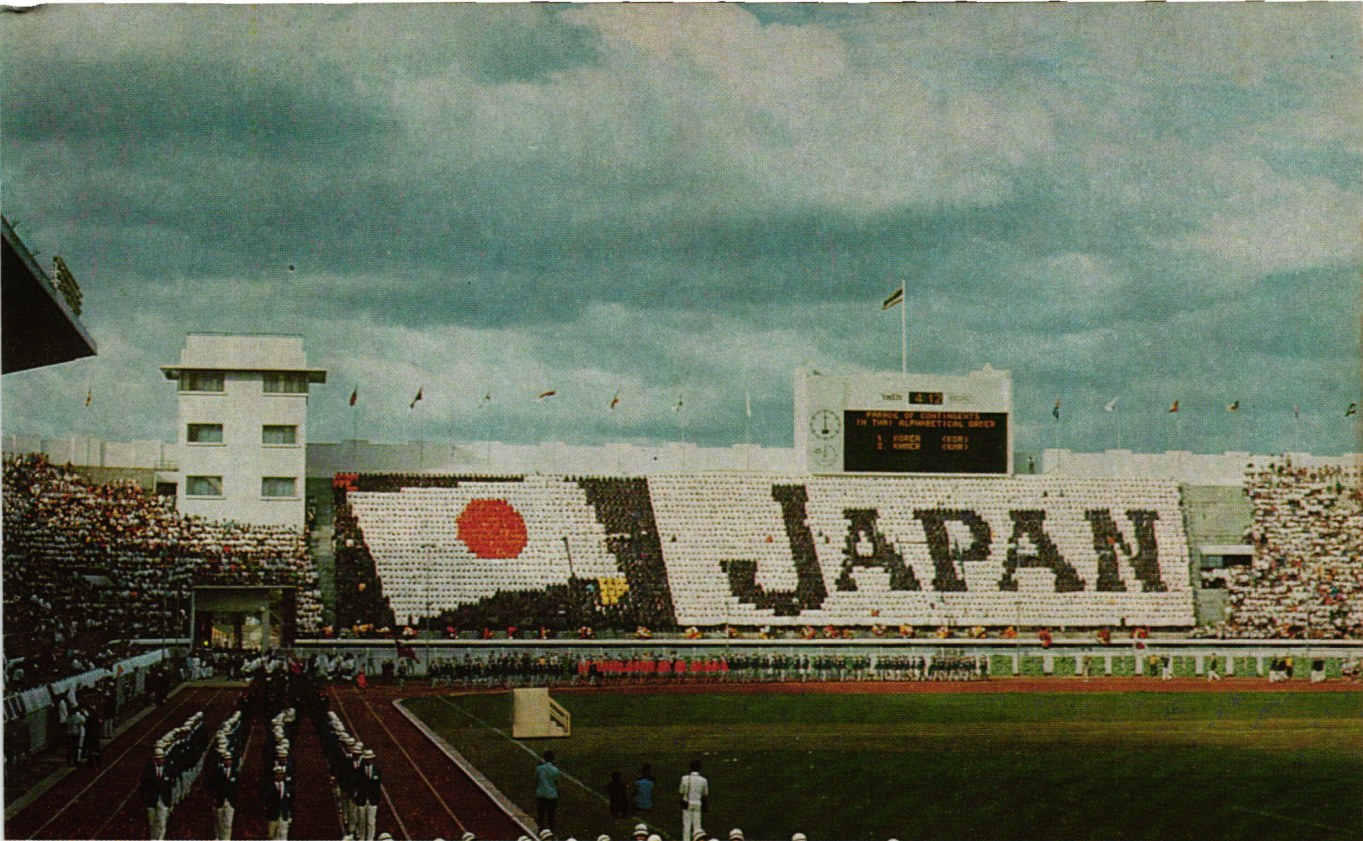
南国の讃歌

〈第6回アジア競技大会特集〉

ヤシの木に囲まれたバドミントン会場キチカチョーン体育館（フォート・キンモト提供）

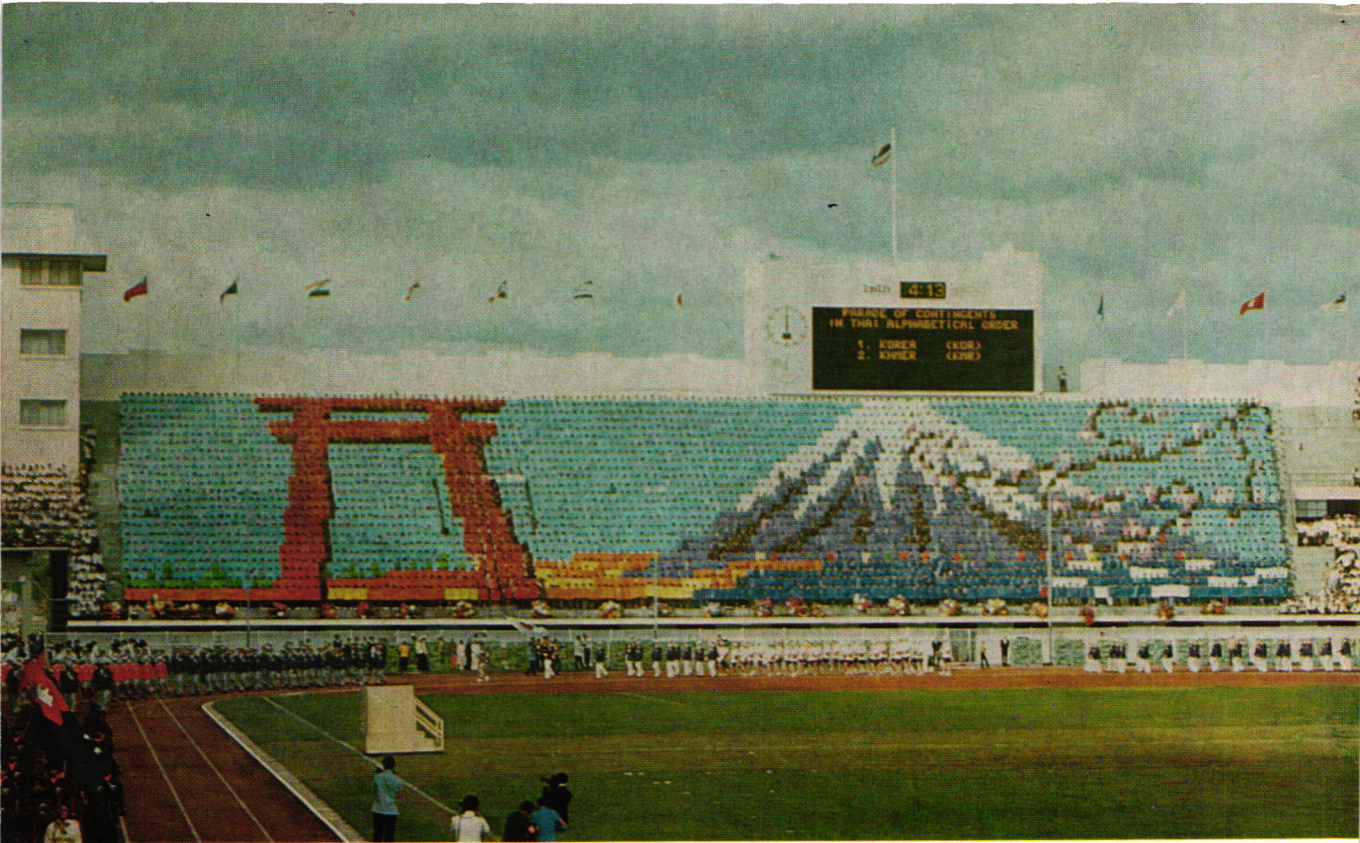
超満員のスタンド（片岡輝明氏撮影）





人文字と絵にいろどられた
入場行進のスタンド風景





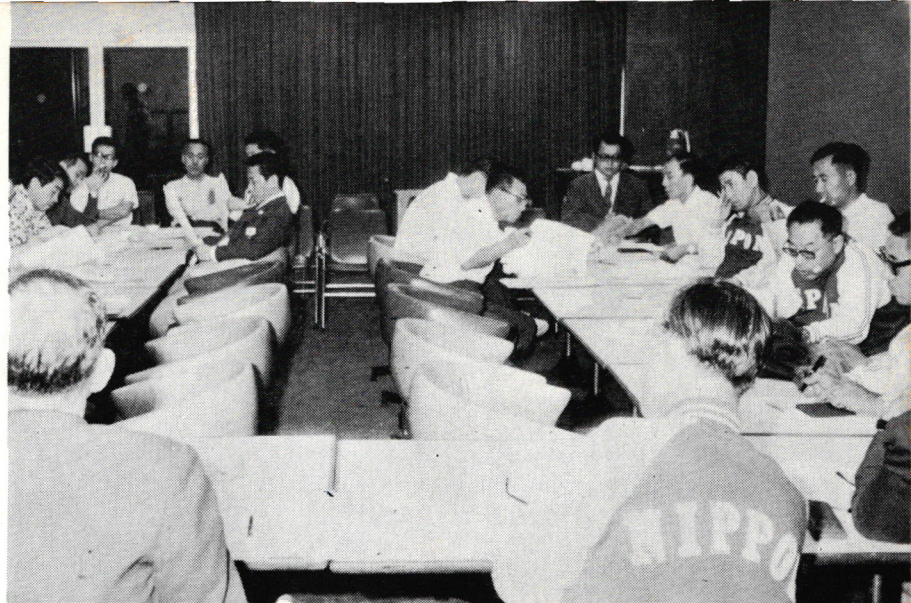
華麗なる開会式..

撮影と提供
フオート・キンモト



選手たちは、かくのごとく、青空と太陽を満喫しているが、日本選手団本部は、連日、朝から各監督を集め必勝の作戦会議に余念がない。

右列一番奥（白シャツ）は川端バドミントン監督
（右）片岡輝明氏撮影（下）フォート・キシモト提供



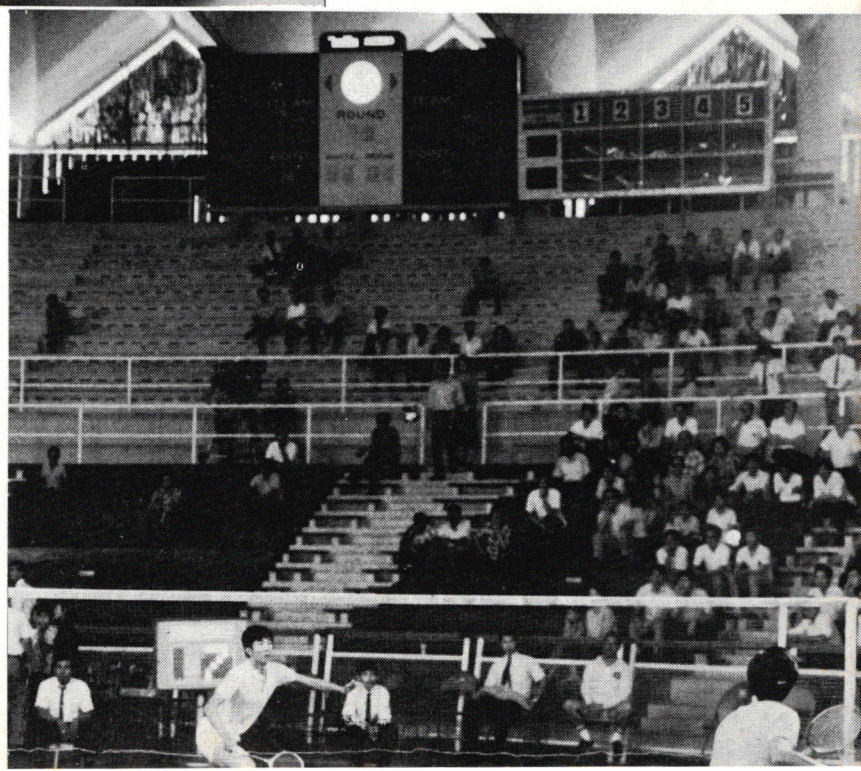
熱戦の

うらおもて



スタンド最上段をごらんあれ。遠目にはアコーデオン・カーテンのごとく、よく見れば破風すくりのごとく、突き出ているカベ（三角窓のところ）ここから風が吹きこんで、日本チームをなやませた。

（フォート・キシモト提供）



つゝの海外遠征を経験して

＝ その反省と収穫 ＝

打倒インドネシアの希望高まる

日本選手団監督 川 端 昇 市

野性的な気力の 必要を痛感

インドネシアとの親善試合、アジア大会と、あわただしいなかで、連続して二つの国際試合に参加した。

他のスポーツとちがって、バドミントンは、アジア諸国が一つの世界の中心であり、日本にとっての強敵である。

その意味で、日本のトップ級選手が、アジアのライバルたちと、しかも「敵地」で、数多くの経験を積んだことは、近い将来、必ずや、日本バドミントン界の前進の「肥料」となるにちがいない。

具体的な個々の点については選手諸君の手記に待つことにして、ここでは、私が監督という立ち場から感じた、遠征の反省

と収穫について、若干、述べてみたい。

まず、反省点でもあり、反面、収穫でもあったことに、気力の問題があげられる。

これは、だれがダメだったとかいうようなことではなく、全体的に、日本選手が「過保護」の状態で日常をすごしていたのではないか、という、私自身をふくめた反省である。

インドネシアのように、バドミントンを「国技」と称し、国家の財政的援助などもある国は別としても、日本選手、それもトップ級は、練習に対する環境が恵まれている。

このため、自主独立の気概が無意識のうちに欠けるようになり、みずからの努力と工夫で難関を乗り越えていく力が乏しくなっているのではないかと、ということだ。

レスリングでオリンピックに公約どおりの金メダルをもたらした八田会長は、わざと選手を蚊のブンブン飛び交う体育館の床に、選手たちにごろ寝をさせたりした。

別に、それがいいということではないが、たとえば、こうし

た環境でも、自分のベストをつくせるだけの力と精神を養うことの大切さを、痛感するのだ。

幸い、選手はみな、こうした基本的なことに気づいてくれたし、不振にあえいだ竹中選手も「チームプレーとはどういうものか、チームの一員として戦うとは、どういうことか、今度、初めてわかった」と述べておりやはり遠征してよかった、と思う。

アジア大会で、男子はインドネシアに、またも苦杯をなめたが、その差は技術的に乗り越えられぬものではないことがわかった。

ダブルスにおいては、日本のスピード、ラッシュが、かなりすぐれていることが証明された。

不幸にして、日本はコンビを組んで日が浅く、しかも、日常「名コンビ」といわれるほど長く、似合いのペアで長く練習を続けることがむずかしい現状だが、実戦の経験が加われば、日本が優位に立つ日は遠くない。

もちろん、クラブ制度も未発達で、海外交流も限られている日本だが、選手たちは、みな意欲に燃え、女子はユ杯の防衛に男子は打倒インドネシアの決意を固めている。この火を消すことなく、さらに燃やすことが我々の責任であると思う。

●今月号のダイジェスト●

今月号はアジア大会の総まとめです。

四年に一度の、この祭典は、東南アジアに強敵がそろっているという意味で、バドミントンにとっては、ユ杯・ト杯に劣らない、大事なイベント。

本号では、現地取材したフット・キシモットのスタッフのご厚意で、カラーをふくむ、8ページのグラフ写真を組んだほか、記録、よみものを、もりだくさんに揃えた。

このアジア大会の直前に、日本代表チームは、インドネシアに遠征したが、ここで得た収穫もあわせ収録した。

よみものの中では、まず、特派員として活躍した二人の記者の特別寄稿、旅日記シリーズの選手団のユーモアあふれる生活ぶりが楽しい。

また、これも、とくに寄稿をお願いした「バンコク見てある記」と「インドネシアの実情」は、両国でバドミントンが、いかに栄えているかを、簡潔に伝えてくれている。

その他、日本協会・伊藤指導委員長は「71年の課題」で「世界一の日本女子も、油断をする」と大変」と問題点を指摘、警鐘を鳴らして注目される。



▲アジア大会会場で川端監督

小島の健闘むなし

男子団体 インドネシアに惜敗

▼一回戦

タ イ 3-0 台 湾

マレーシア 3-0 フィリピン

インドネシア 3-0 ネパール

日本 3 (単 12-0 0 香港 複 1-0)

小 島 2 (1515-15) 0 黄飛濯

○ 梶野尾 2 (1515-2) 0 蔡 輝

○ 本間 2 (1515-12) 0 黄新隆

▼準決勝

タ イ 3-1 マレーシア

インドネシア 3 (単 11-1 1 日本 複 2-0)

○ ハルト 2 (1515-11) 0 本 間

ひとことというところ、ハルトノ

はスピードがあり、パワーがあり、コントロールがよく、読みも早かった。

逆をつかれた場合でも、相手は普通の選手なら、なんとかレシーブができるが、ハルトノを相手にしては、全く手が出なかった、というのが正直なところ。

こんなことを感心してはいけないうけだが、改めてその力量に驚かされた。

ほかに、特に気付いたことでは、ネットブレイの抜群のうまさがある。われわれ日本選手は、すくっているという感じで打つが、彼の場合はタマにさからわず当てる、といった感じ。見ならわなければならぬと思った。(本間順次)

本間組“金”のがす

意識しすぎた勝負

◆シングルス

▼二回戦

小

島 2 (1515 7-15 5 9 15) 1 (ビュント)

▼一回戦

小 島 2 (1515-95) 0 ソ (比国)

▼準決勝

第一ゲームはスタートよく4-0とリードしたが、相手がこちらの攻め口をわかつてくるはずするとベースにひきこまれてしまった。

第二ゲームも、スタートからリードを許し、中盤からけんめいに追い上げたものの、追いつくことはできなかった。

結局、インドネシア組のスピードについていけなかったこと

▼決勝

インドネシア 3-0 タ イ

また、インドラトノが全力で打つ、スピードと角度あるスマッシュをレシーブしきれなかったことが、われわれの敗因となった。

自分の力不足ばかりでなく、ダブルスのむずかしさを痛感させられた。(谷口 寛)



▲アジア大会のプログラム

大会総まくり

体・個人タイトル独占

銅メダル”以上の成績

第六回アジア大会で、日本は金3、銀1、銅3という、かつてない好成績をおさめた。

大会は十二月九日から二十日まで、前回に引き続き、タイ国の首都バンコクで開かれ、バドミントン競技は、十日―十九日にわたり、キチカチョン・スタジアムに、十カ国が参加して、熱戦を展開した。

日本は女子がユ杯保持国の面目を発揮して大活躍した。まず前半の団体戦では、インドネシア、タイをくだして優勝、個人戦でもシングルスで湯木がトンカム(タイ)を破り、ダブルスでは相沢・竹中組がスルハエナ・レトノ組(インドネシア)に勝って優勝と、三種目ともに完

ムルヤ 1 (5 12 15-15 15 9) 2 小 島

○ ハルト 2 (1515-4 12) 0 本間

○ ラトノ 2 (1515-10 4) 0 谷 口

○ ミントノ 2 (1515-10 4) 0 小 島

第6回アジア競技

ユ杯の貫禄、女子団

初の快挙、出場全員が

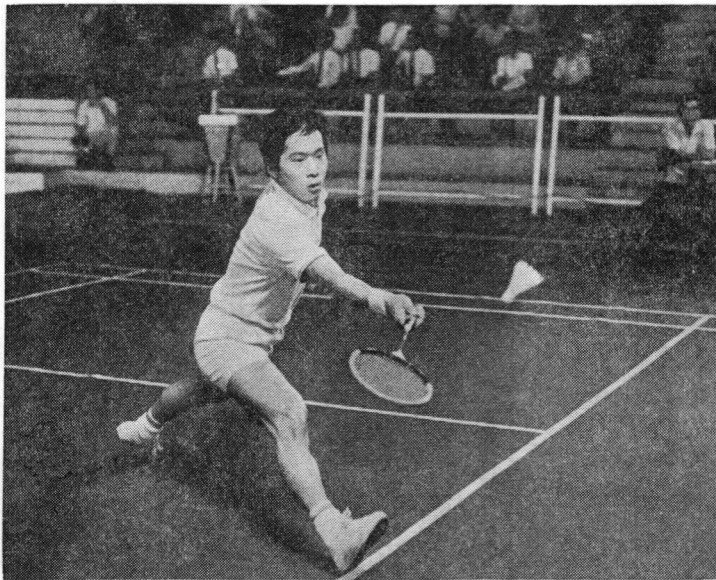
(特集)

過去の成績

◆第四回大会(62年・ジャカルタ)金0、銀0、銅0
 ◎男子団体Ⅱ2回戦でインドネシアに屈す◎女子団体Ⅱタイに破れ4位
 ◎男子単Ⅱ小宮が準々で敗退
 ◎男子複Ⅱ小宮・永井組が準々で敗退
 ◎女子単Ⅱ梶野尾4位◎女子複Ⅱ梶野尾・橋組1回戦で敗

退
 ◆第五回大会(66年・バンコク)金2、銀1、銅4
 ◎男子団体Ⅱ準決勝でマレーシアに屈す◎女子団体Ⅱ優勝
 ◎男子単Ⅱ秋山が準決に進出
 ◎男子複Ⅱ秋山・小島組、堀・宮永組とも2回戦で敗退
 ◎女子単Ⅱ高木優勝、高橋が準決に進出◎女子複Ⅱ天野・高橋組2位、高木・後藤組準決に進出
 ◎混合複Ⅱ2回戦で敗退

全制覇を飾った。
 一方の男子は苦戦の連続ながら、やはりメダルを手にした。団体戦はインドネシアに当たり接戦のすえ敗れたものの三位。シングルスでは小島がムルヤジ(インドネシア)と惜敗して、やはり三位、ダブルスの本間・梶野尾組は決勝に進出して二位を確保した。混合ダブルスは小島・竹中組が準決勝に進んで三位となった。
 いずれにしても、団体メンバーをふくめ出場全員が銅メダル以上の成績となったのは成功といえる。
 (注、バドミントンが大会で実施されたのは第四回からである。)



▲主将として孤軍奮闘した小島一平(フォート・キシモト提供)

ムルヤジ (インドネシア) グナラン (マレーシア) シアン	2 2 2 2	151117 101516 1017 0	1小 島
グナラン (マレーシア) シアン	2 2 2	15154 12315 1	ムルヤジ
ダブルス ▼二回戦	2 2	1515 00	シャイ、 K・C (ネパール)
本間 梶野尾	2 2	1515 88	チャバ ラ、ボ ン、ポ ン(タイ)
ウインブル ン、グナ ラン	2 2	151015 101512	1 グナワ ン(ネ シア)
ウインブル ン、グナ ラン	2 2	15155 7815	1 本間 梶野尾
ウインブル ン、グナ ラン	2 2	15155 7815	1 本間 梶野尾
ウインブル ン、グナ ラン	2 2	15155 7815	1 本間 梶野尾

は完全にこちらのペースで進めることができた。しかし、二ゲーム目になり、勝ちを意識して思い切ったプレーができず、相手を調子づかせたのが残念。
 プレーは、ブッシュはそれほど早くはないが、次のタマに対する陣型が完全のため二、三発目に決められたケースが多い。レシーブ・アタックがうまく、完全にタマを引き込んで打っていた。
 (本間順次)

日本代表チーム

◆監督 川端昇市、日本協会理事
 ◆コーチ 板垣隆房、日本協会競技力向上委員

◆男子▼小島一平(三) 中大出、ヨネヤマラケット、160
 67、60
 ◆男子▼梶野尾昌一(三) 法大出、ヨネヤマラケット、176
 67、65
 ◆本間順次(三) 中大四年、176
 67、68
 ◆谷口寛(九) 立大二年、178
 67、69

◆女子▼湯木博江(三) 日女体大四年、161
 67、60
 ◆竹中悦子(三) 新潟青陵短大出、ヨネヤマラケット、163
 67、55
 ◆相沢マチ子(三) 新潟青陵短大出、ヨネヤマラケット、163
 67、53
 ◆西尾眞理子(七) 大阪・四条畷学園高二、157
 67、56

対インドネシア戦には苦戦、最終試合で勝つ

女子団体戦

タイにも
一つ落とす

竹中の不調つづく

女子団体戦

▼一回戦

インドネシア 3—2 マレーシア
韓 国 3—2 台 湾

▼準決勝

日本 3 (単 12—11 2 インド
複 11—11 2 ネシア
木 2 (1112—411) 0 ミナル
ニ

エ杯以来の対戦。あのときは自分でも、よくわからないプレーをしたので、今度こそは!!でぞむ。1ゲーム8—3のリードのあと、自分の凡ミスが相手のスマッシュを誘発、一気に9までいかれたが「負けられない」と相手をつらみつけながらセッティングに持ち込む。

がつちりスクラム

若き四人組

二十二歳の湯木博江(日女体大)を中心、二十歳の竹中悦子(新潟青陵短大研究生)と相沢マチ子(同)、高校生、十六歳の新鋭尾真理子(四家塾学園)。こ

川端監督は「優勝は予想とちがって完敗した。八月ごろからスランプが続き、欲をいっせいにストリートで勝ちたかったという。世界一のき、迷って弱気になってしまいました」涙を浮かべる竹中。思わぬ日本の一敗に観衆はすっかりエキ

「ウワッ! (それっ!)」・相沢組は第一セットを一方的にと二音に声をあげてタイ・チームへの応援だ。だが、日本は次のダブルスをががつちりものにしてピンチを脱し、ついに湯木と十月の合宿から「つないで新ろ」と竹中に言打

ち、徹底的にボールを拾って作戦に出た。タイはあせる。そしてミスが始めた。差はみるみるつまつて13—13とついに同点。こうなれば日本ペース。竹中の豪快なスマッシュが続き、最後はトンカムが落として劇的なゲームは終わった。「0—14からひっくり返したこともありますが、負けるなんて全然……」と相沢と竹中。三年前からペアを組んでいる両選手はうれしそうに握手をかわした。

(田中信特派員)

(東京新聞から)

2ゲームから風が多くはいってきて、私のコートにむかうため、サーブがのびず、スマッシュで決められる。しかし前半を1点で押え、折り返す。ミナルニは1ゲームをさせて、パテたように思われる。(湯木博江)

竹 中 1 (7 11 11 11 3) 2 ウタミ ○

試合少し前から風が強くなりそれを頭に入れてコートへ。1ゲーム、自分のサイドから打つタマが風に押されて短くなるので、サーブの位置を前にしていき、相手に上げさせようとしたのが郊いて、ほとんどバックアウトがポイントにつながっ

相 沢 1 (16 8 15 17 15 8) 2 ミナル ○
トノ

風が激しく入ることを計算に

た。2ゲーム、今度は上げずに、またクリアーも高めに攻めたらアウトしないだろうと思ったがふだんの半分ぐらいの力でもバックアウトした。しかし、フロントワークにまだまだ自信がないので、ネットで勝負できなかったのが、なにより敗因。ファイナルは6—4までどうにかリードできたが、コートチェンジしてから、やはり風に対して自分のプレーをコントロールできなかった。(竹中悦子)

第三ゲーム、14点を先きにとりながら追い上げられた。あとの3ポイントでネット・ミスが続き、相手をうしろまで押し切れず、前陣で料理されてしまった。せり合いでも絶対にくずれず、何が何でも一本の気力を

持たなければと反省した。

(竹中悦子、相沢マチ子)

○湯木 2 (1515 | 139) 0 ポビィ、
西尾 2 (1515 | 139) 0 スルハ
エナ

1 ゲーム、6 までリードされ

たとき、アガっているのがわか
った。「高校生相手と思って」

といいきかせる。第2ゲーム、
14 まできて、またあせった。

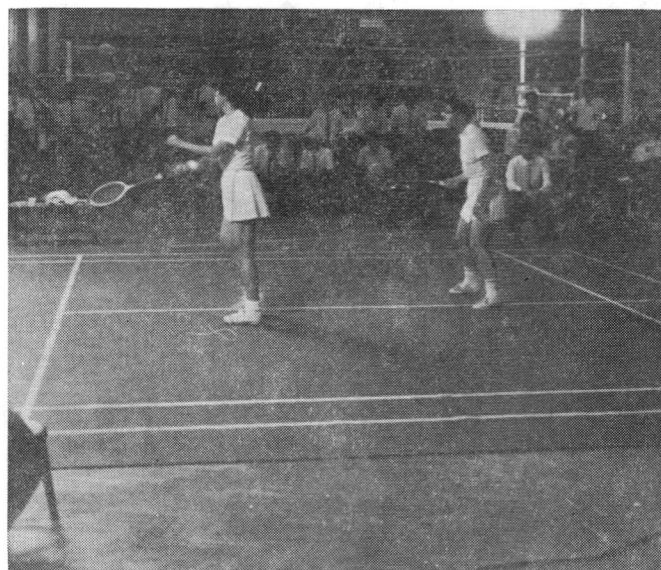
湯木さんに、後に行ってもら
い、自分は前に出よう。私のタ
マは、全部、切り返されるか、
打たれるかだから……。風が少し

入ってくるとハイクリアーが飛
ばず、やりにくい。一つ一つの
ことを考える余裕はなく、気が
ついたら勝っていた。

(西尾真理子)

○相沢 2 (1211 | 8) 1 テレシャ
10611

この試合で決勝進出が決まる
だけに、苦しかった。相手にス
マッシュを打たれないよう、ド
ロップとネットでいったのがよ
かった。また、小島さんのアド
バイスで、ショット・サービス



▲湯木と新鋭・西尾のダブルス

でゲームを運んだことも効いた
と思う。ただ、負けられない試
合なので、余り思い切ったブレ
ーがでなかったことが残念でな
らない。(相沢マチ子)

タ イ 3 - 0 韓 国
▼決勝

日 本 3 (単 1 | 1) 1 タ イ
複 2 | 0

○湯木 2 (1111 | 4) 0 アチャラ

竹中 0 (5 | 7) 2 トンカ

○湯木 2 (1515 | 7) 0 スモン

西尾 2 (1515 | 7) 0 ベチラン

○相沢 2 (1815 | 15) 0 アチャラ

中 2 (1815 | 15) 0 アチャラ

第4試合のダブルス、竹中・

相沢組が1ゲームを先行、第2

ゲーム11-8と追い上げたとき

だった。三十歳のベテラン、ト

ンカムの打ったタマが20センチ

以上もバックラインを割ったと

見たが、タイ人の線審の判定

は「イン」。それまでも不利

な判定をいくどかされていた竹

中、相沢は顔色を変えて抗議の
ゼスチュアをしたが、インド人
のレフェリーも知らん顔。この
ショックで、スコアは13-8と
日本がピンチに追い込まれた。
しかし、気を取り直した二人
は強打に出て……。 (読売新聞)



ポンゴの



うた

選手団の「マル秘」の日記を
一部分、公開します。

例によって珍談、奇談は数知
れずだが、遠征の目的は勝負だ

リキむと

なにが出る？

12月4日 羽田11・30のチャ

ーター機にて、バンコクへ。一
同、揃いのユニフォームなので

修学旅行かなにかみたいです。
機内では、いろいろな選手と

早くもパーティーで大活躍

12月5日 12時から練習。パ

スで体育館まで。公園の中にあ
る小さな体育館。(二面)

雨が降っているためか、ムシ
暑い。ランニング、公園二周。

軽く基礎練習の後、ゲーム練習
にはいる。

1ゲーム終わったところで、
西尾さんが「気持ち悪い」とい

う。私たちが初めて来たときに
目まいを起こしたことがある。

多分、同じようなものだろうと

けにあらず、見聞をひろめるの
は大いにけっこうです。

文中、点線で囲んだ部分は男
子を書いたものです。

同席。バンコクへ着く直前、某
嬢、三宅選手(重量あげ)に「リ

キむとオナラが出るのではない
か」まわりの人大爆笑。「緊張

すると(試合中) 出ない。練習
のときは、ときたまあるが、バ

ドミントンだって、出るとこま
るだろう、ハハハ……」

思い、横にならせる。

きょう一日、休めば大丈夫で
しょう。男子の方は谷口君ダウ

ン。初めてのものには、ありが
ちなこと……。

通訳の人がつく。19歳、パン

コクへ来て五年になるという。
名前は「ほしな・なみこ」とい

う。私達より年上に見える。環
境のせいか。

18・0より日本大使館でガー
デン・パーティー。赤飯、焼鳥、

湯木アジアでも “女王の座” に

対ミナルニ戦

女子個人戦

◆シングルス

▼準決勝

湯	木	7	8	11
ト	棄	8	8	11
ン	権	7	11	
カム		4	7	11
2		1		
(タイ)		シ		
		ル		
		ビ		
		ア		

2ゲーム目7-8のときミナルニがケガする。ヒザ?をやったらしい。なんとなくイヤな勝ちとなった。これでも勝ちには勝ちだろうか?

1ゲーム、足が重くミナルニに振りまわされた感じ。7本で負けたとき、2ゲームはとらなければいけない。この試合に関しての感想はいえない。

(湯木博江)

▼決勝

湯	木	11	12	9
		8		
		0		
		ト		
		ン		
		カム		

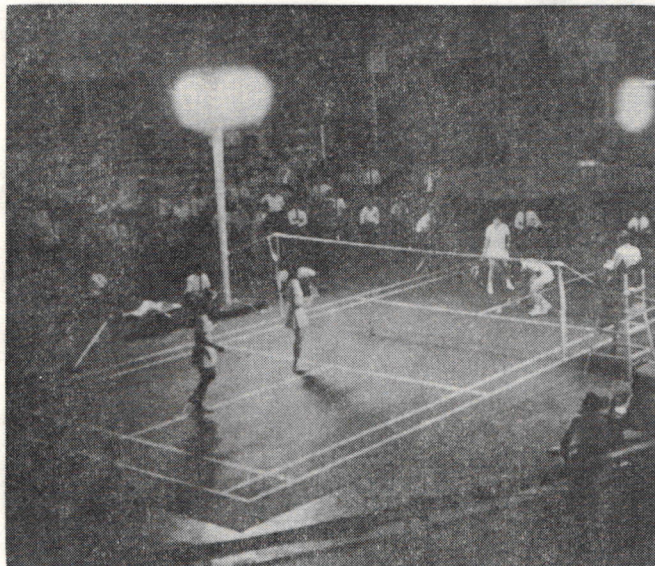
第1ゲームの立上がりこそトンカムに0-6とリードされたが、もともとスロースターター。落着きはらってエンジンのかかるのを待った。そしてアッという間に8-7と逆転した。

「だが、割り切れない」と

第2ゲームは一進一退。4-4からトンカムが3本連取したが、湯木は相手のミスに乗じて楽々と9-7とリード。一度ネットにひっかけたものの、湯木の優位のまま第2ゲームもとった。

湯木は「風が少し吹いていたので、ちょっと苦労したが」というふうとしたもの。川端監督も「向い風の方に打ったり、なかなかうまくいかなかった。相手は三十歳にしては、よく動いたが、結局は湯木の技が上回った」と満足気。

(朝日新聞・国嶺特派員)



▲コートは中央のボクシングのリング(写真左上)を囲む、四隅に斜めにおかれている

カナッペ、ケーキ類、バナナ、ジュース、ビール、ジン、ウイスキー、日本茶など、たくさんの品が出る。

(注、このパーティが原因で日本選手団に大量の食中毒患者が出た。日本の新聞紙上にも大きく報道されたのは、ご存知のとおり。幸いにもバドミントンは関係なかった)

12月5日 8時起床。皆さん強行スケジュールのため、お疲れのごようす。練習がおいのため全日本を代表して朝食を整理、コックも驚きの表情。

練習では早くも谷口、西尾両選手がダウン。監督、コーチの頭痛のタネ。

トレパンでムシぶるトレーニング

12月6日 晴、朝食8:00。

朝から食欲が出る。バイナッブルなど、二度も取りに行く人もいる?! 9時半練習へ。

1試合もすると、ムシぶろにはいったようだ。男子は「短パンをしぼると汗がボタボタと落ちる」という。洗濯したときのように。

練習後のせいか、昼食のおいしいこと。暑いところでは、食べられるということは健康な証拠。

練習会場の周辺はアベック絶好の場所。でも、きょうはスコールでせっかくのデートも車の中。体育館の中にもスコール、照明の電球がショースしたり、ユカがすべるやらで、会場係りも猛練習。

組み合わせが決まり、監督さん、若手に大一声「全タイトル獲得!」

夜のレセプションでは、バドミントン選手団、早くも活躍、自分のテーブルは早目に片づけ、他のテーブルに挑戦。帰りは手にいっぱいおみやげをぶらさげ、笑顔いっぱい。さすがに世界チャンピオンの日本女子。頭が下がる。

練習は午前中だけなので、夕方五時ごろから体育館の所までランニングして、少しトレーニング。

男子は短パンでいいが、女子は、長い厚手のトレパンしかない。この暑いなかを、こんなもので走るとは。かといって(?)で走るわけにもいかない。

公園まで3キロ近くあるのではない。か。ようやく着いたときはホッとする。女子は公園一周、男子は二周して休けい。

相沢・竹中がんばり抜く

混合はあと一步、及ばず

◆ダブルス

▼一回戦

竹相 中 沢 2 (1515 | 5 | 2) 0 金宗信 (韓国)

▼決勝

竹相 中 沢 2 (1515 | 6 | 11) 0 ナ、レト

タイに負ける気はしなかった

◆混合ダブルス

▼一回戦

小竹 中 島 2 (1515 | 2 | 1) 0 梅麗華 (香港)

準決勝
スルハエ ナ、レト 2 (1515 | 10 | 5) 0 オ、シユ (マレーシア)

▼準決勝

竹相 中 沢 2 (1515 | 2 | 6) 0 スモル、アチャラ (タイ)

シルビア ウンブン 2 (1515 | 11 | 9) 0 小竹 (タイ)

川端監督の話 インドネシアとの準決勝が、事実上の決勝だった。タイは思ったより手ごわかったが、力からいって、負ける気はしなかった。それにしても戦いにくい敵地で、湯木がよくがんばってくれた。(読売新聞)

(朝日新聞から)

選手の間

団体戦では、インドネシアのウタミさんに負けるし、タイのトンカムさんにもやられてどうも負けついで。別に調子はずれじゃないですが、やはりマークしたのはインドネシアと地元のタイです。タイは去年のユニバー杯の時からみて、そんなに力は衰ってはいないのですが、地元

バドミントン学校卒

うです。ある人がインドネシアの人に「学校はどこ」と聞くと「バドミントンスクール」と答えたのです。やはり国技として、国だけあって誇りを感じました。



竹中悦子選手 (バドミントン)

日本のチームもこんな高校生の西尾さんはいって活躍しましたし、彼女も自信をつけたなつと思えます。私

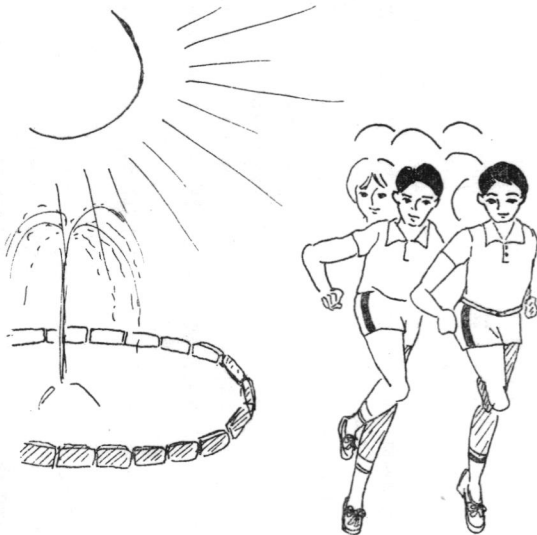
小島主将、英語でだます?!

12月7日 晴、雪が多い。洗面しているとき、電話が鳴る。小島主将の声「正露丸があるか」

さては(?)が始まりましたネ。昨夜9・30の出来ごと——監督の部屋に用事があり、電話。

シャワーを浴びて、7・00から夕食。監督はなにも運動しないけど、よく食べます。会議などで神経を使うせい。そういえば、頭を使うせい。毛が二、三本少なくなったのでは……(これはナイショです)

端監督の大きな目の中でブレ、少しずつ調子が上がっているようす。夕5時からトレーニング。この暑い中を女子は皆トレーニングパンツで、走る前から汗だく。目的の地は練習会場の公園。日曜のため、人波でいっぱい。声援の中を、さっそうとはいかぬまでも、全力疾走。



この暑い中に公園を二週マラソン

驚かされたハルトノのプレー

だが差はわずか、がんばろう

梅野尾昌一

(ヨネヤマラケット)

での国際学生選手権と、ほぼ同じであった。

アジア大会には自分としては初参加だったが、参加国は、ほか、ちょっと、なんだが、ひくが、かつて経験したセイロンと口について、各国ともトップ

の選手層の薄さが感じられた。といっても、インドネシアは次期トマス杯めざし、若手の選手を、試合には出さないが、数多く遠征させてきており、やはり、バドミントンを国技とする国だけあって、若手育成に力を注いでいることが、よくわかった。

だが、他の国々は必ずしもそうでない。

日本と同等にランクされるマレーシアは、ベテランのブンビーやグナランなど、よく知られた選手が代表で、アイクハン、アイクモン等、力のあるはずの選手が来なかった。

バドミントンにとって、アジア大会は、事実上のオリンピックであり、当然、最強メンバーが組まれるはず。

だが、地元のタイにしてからが、トップはサンゴブ、チャバレットのようなベテラン連中で新鋭がとってかわるまでにいたっていない。ビルマなどは、国際学生で顔を合わせた選手二人とマネジャーが、そのまま、アジア大会に来ていた。



帰国して感想を語る選手団

ルーム・ナンバー312を呼んでもらって「モシモシ」という「ハロー」と答える。おかしいな、と思って、もう一度「モシモシ」またまた答えは「ハロー」

そこで考えた。交換台が、部屋をまちがえたかな。「ルーム・ナンバー312...?」すると「ノー」。あわてて「おお、ソリー」といって切ろうとすると、ガラガラ笑い声。なんと相手は小島さんだった。

小島さんは、その手で隣の部屋もダメしたそう。

「タイの新聞記者だが、アジア大会ではどうか」という質問をしたとか。

竹中嬢あわてて「監督に聞いてくれ」単語を並べて、必死に防戦!!そのうち「マイ・ネーム・イズ・コジマ」というのを二、三

西尾、面会で涙をポロポロ

12月7日 11時からトレー

ニング、5時半から練習。体育館は町はずれ、最近ようやく建ったばかりと思える団地がボツン、ボツン。あとは草が自由気ままにのびている。

体育館の中は、これまたすばらしくユカが波うっていて危険がいっぱい。プレーの最中に野良犬がコートの中へは

回聞いて、いたずらとわかる。ヤナ小島さん。英語のときの声の方がいいみたい。

ふたたび、きょうの日記——
午後の練習6・00〜9・00。

疲れが出てきたのか、女子、からだが大い。無理をせず、軽く流す程度で終わる。男子の方も、谷口君、本間君、調子が悪いようす。

この体育館、蚊がたくさんいて、じっとしていると、身体中さされそう。床も悪いし、ネットも低い。

夕食。小島さんは梅干ばかり14コも食べました……つらいですね(よくかぞえたものだ)

夕6・00ごろ片岡先生と秋本さん(四条畷高)が到着したらしい。電話あり、西尾さん、うれしそう。明日、面会とか。

いつてきて、ひと騒ぎ。

12月8日 晴。試合会場での練習。中央にボクシングのリングがあり、コートは四隅にナナメにつくってある。何となく落ち着かないコート。風も少しはいつてくる。

13・00〜14・30までの練習割り当てだが、韓国と交渉して16・00まで、いっしょにさせても

しかし、このビルマのように選手層の薄い国々でも、一人一人の技術、体力、練習等には、教えられるものがあつた。自分の得意な点を意識的にのびし、悪い面をカバーしていく練習方法も、ひとつの行き方である。ハルトノには、やはり驚かされた。彼もセイロン大会の出場で、当時から頭抜けた選手ではあつたが、これほど急速の進歩をとげるとは思えなかつた。最高の素質を持ち、環境にも

× ×

× ×

× ×

参加できてよかった

人生の勉強も 夢中で戦った全試合

西尾真理子

(四条畷学園高)

私にとって、海外遠征は初めてだったので、最初からとまどつてばかりいました。

飛行機の中では、それほど感じなかつた言葉も、一歩、他国の土を踏むと、自分の英会話の未熟さがイヤというほど、わかりました。

また、インドネシアやタイの政治問題や特徴も、実際に身体で感じとれるようでした。

プレーの面では、インドネシア選手の手首の柔かさにびっく

裏まれていたのだろうが、なんといつても、それを生かす練習が、彼のプレーをつくり上げたのだと痛感した。

——というようなことを見聞き、考えることができたことは大会に参加しての収穫の一つだったと思う。

また、日本が各国にさきがけて、若手を参加させてくれたことは、非常にありがたく、将来へむかふての意義が深いものだと思う。

りしました。どんな人にも、どこかにすぐれた点があり、ハイバックも、ほとんどの人が打つことが出来ていたように思います。

自分は、というと、試合の前日まで調子が出なくて「これでよいのか？」と考えたことも、たびたびでした。結局、試合中は、無我夢中でやることができ、勝つことができました。

体育館に風がはいり、これも初めての経験。シャトルも初めて使つたものだったので、とても、こまりました。

プレーに関するただけでな

これからは若手をどしどし対外試合に出してほしいし、またもし、海外へ行けなくとも、各国のプレーヤーを一人でも二人でも招待し、若者たちの栄養にしてほしいものだ。

負け惜しみではないが、ハルトノをのぞくと、日本の力と他国のトップ級の差は、それほどではない。試合経験、練習の工夫などを通じて努力し、力をつけていけば、必ず世界一になれる道はある、と考えた。

く、日常生活にも、考えさせられることが、たくさんありました。「目的にむかつて、まっすぐ、たった一度の青春を燃やすことは、美しくもあり、たくましい」という、すばらしいことばも、教えてもらいました。いま、いろいろな思い出が脳裡をかすめていきます。

それも、これも、お金では買ふことのできない、すばらしい経験でした。やっぱり、遠征できて、よかったと思います。

みなさん、どうもありがとうございました。

らう。

本間君、腰の調子が悪く、なんだか元気ありません。小島さんの(?)は治ったとか。谷口君はマッサージにいつて、よくなりつつあるらしい。女子勢、異常なし。

(きょうは、大東亜戦争の始まった日デス)

12月8日 午前中は自由時間。竹中、相沢はマッサージとやらで昼食抜き。お二人さんの感想「ああ、いい気持ちだった」。おかたい相沢が、

インドネシアの実力偵察

12月9日 晴。開会式。ロビーへ14・45集合。胸のポケットにタイ国旗を入れて振るらしい国王と王妃もご見学。学生による文字がきれいだつた。カメラで写すことができず残念。

選手団の中には、かくれて写している人もいたようだが……。聖火も点き、鳩が飛び、風船が舞い、打ち上げ花火(落下さ

ん)と、アジア大会の開会式らしく、いよいよ、という実感がわいてくる。

明日は男女ともに試合なし。

タメゴローもおどろく

12月11日 女子は10・00から

スポーツ・クラブで練習。クラ

きょうからは、さぞ柔軟性のあるプレーをやることでしょう。

トビックス——西尾のパートナー秋本、片岡先生がホテルへ面会にやってきた。西尾うれしさのあまり涙がポロポロ。

屋から試合会場で練習。さつそく小島主将、ボクシング・リングへ上がりスパーリング。一見、パンナム級チャンピオン。

十一日男子、女子は十二日。今夜のミーティング、川端監督のお話……楽しいお話し。

12月10日 晴、雲多し。午前9時半から練習会場。風がひどく、練習にならない。

2・00から女子インドネシア対マレーシアの試合を見学。インドネシア3・2。やはり相手はインドネシアと決まった。

体育館の状況風がはいってきているようだ。左方向へ流れる。シャトルは、どうやらいよいよです。

征服できた “精神力の弱さ”

次期ユ杯の足がかりつかむ

湯 木 博 江

(日女体大)

初めてのアジア大会出場権を獲得したのは、アキレスけん切断の負傷回復後、最初の公式戦でもあり、うれしさは人一倍でした。

本大会までの二回の合宿は、「足が痛くならなければいいが」と思いながらの毎日で、精神的な疲れの方が大きい気がしましたが、なにこども起こらず、出発することができました。

バンコクの暑さは、厳しいと聞いていたのですが、それほど感じることなく、試合にのぞむことができたと思います。

最初の対戦国はインドネシア。今大会での決勝戦といっても不思議ではありません。ユ杯では負けているミナルニとの対戦……どうしても勝ちたい、と思う気持ちには強いが、反面、負けるかも知れない、という動揺も少くすことはできませんでした。しかし、勝負の女神が私の頭上に輝いていたのか、2-0で勝つことができ、今までのいろいろなことを、すべて忘れることが

できた気になりました。

ところが、ひと安心は、まだ早すぎたのです。第二S、第一Dととられ1-2。あと一試合負ければ、一巻の終わり。

第二Dは私と西尾さん、初めての海外遠征の西尾さんの調子しだ

いで、勝ちも負けも決まる——こんなことを考えると、ひどく不安でした。

しかし、私が余計な心配をするほどのこともなく、西尾さんは思いっきりプレーしてくれ、私もやりやすく、この試合に勝



▲西尾の高校のパートナー秋本（右端ミニスカート）も応援にかけつけた

ブという名のとおり、とってもきれいな所。竹中・相沢組、調子が悪く、思い切った練習はやめ、予定より早めに切り上げる。12・30会場へ。14・00男子の試合。

日本3-0香港。3ポイント先取で打ち切り。明日は男女ともに対インドネシア。時間が同じ2時なので、応援はできないが、がんばりましょう。

午後8・00ミーティング、明日のオーダー発表。シャトルはいいのだけを選ぶこと。会場に風が吹くかもしれないが、自分でコントロールすること。

12月13日 晴のち雨。遅い朝食をとり、相沢、竹中、湯木とマッサージュ室へ。先生にいわせると、三人とも「ガタガタ」の身体ようです。昨日の試合で

団体金メダルでほっとひと息

12月14日 午前10時から女子団体決勝、対タイ国。3-0で終わるはずが、3-1となる。竹中さんの調子悪い。

いつもの彼女なら楽に勝てる相手なのだけど。でも、とにかく優勝。一つの責任を果たし、ホッとひといき。二日後から個人戦、もう一つの責任を、それぞれ勝ちとっていかねければ。

N子嬢の好みの男性像「身長180センチ以上、顔型？卵型、色

痛むところが全然とれない。どこをマッサージュしてくれたのか。西尾嬢は午前から秋本嬢の相手。男子は三時-六時練習。

× × ×

○月○日○時の話 レストランからホットドッグ一つを持ち帰る。N子「ほしくないわ」といつつ、ペロリとたிரらげる。5分後「私じゃない」といつていたA子から「ネエ、ホットドッグちょうだい」と電話。

「残念でした。もう胃袋の中です」「そう、いいわ、ルームサービスでなんかとって食べるから」——10分前までは「おなががいっぱい。なにもいらぬ」といつていたのです。A子さんは——タメゴローもくしゃみしているだろう。

：黒（ひょっとして黒人？）目は大きくて輝きある瞳。はたして、こんな人いるかな。

12月16日 晴。昨日同様、朝から日が高く、暑くなりそう。

午後6時-9時、公園で練習。相沢さん肩、竹中さん胃痛で不調。大丈夫かしら。でも、あすから個人戦、がんばろう！！

12月18日 晴。個人戦二日目第一便で帰国する選手団は今朝7時半ごろホテルを出発。私たちも早く帰りたい。

出し切れなかった自分の力

恵まれすぎていた「環境」を反省

打倒インドネシアに再出発誓う

つことができ、勝運を第三Sの相沢さんにバトン・タッチしました。
相沢×テレシャ戦も、最後の最後までわからない試合でしたが、ぎりぎりの点で勝ちを握り、全員、手をとり合って喜びました。
個人戦は、ミナルニの思わぬ事故で、負けながら勝つという

×

×

谷口 寛

(立教大学)

約一カ月にわたる遠征を終え初めて経験した異国での試合について、思ったまま――

〈インドネシア親善試合〉

それはまず、一万五千人以上の熱狂的大観衆との戦いから始まった。

ラリーの最中におこる喚声、

大観衆のために暑さがいっそう増す。そのために観衆が窓をあけてしまい、風がはいる。悪い

シャトルがますます変化する。係り員が窓を閉めにいきたくて

も、観衆が多くて行けない。そのような中で試合、恥ずかしいことだが、自分の力を出せぬ

まま敗退してしまった。
日本での試合環境が、恵まれ

すぎていると、思わざるを得ない。それを当然のこととして受けとめていた自分。

だから、どんな環境、条件の

割り切れない試合でした。でも勝ち負けは勝ち、と考え直し、決勝にのぞみ、二つ目の金メダルを手にした。

今回の大会での私の一番の収穫、それは団体戦の試合で、精神的な強さを、自分の内に見出すことができた、ということです。

これまで自分でも反省し、他からも、何度となく指摘された

×

×

「精神力の弱さ」。これを克服できたことは、大きな勉強になりました。

もちろん「気力」が本当に身につくまでには、何度か、これからさきも試練を受けなければならぬと思います。そして、本

当に自分のものにできたとき、次期五杯も日本の手にすることが

できる、と思っています。

×

×

下であらうとも、自分の力を出しきる精神力、また、それに適応したプレーをする力が、身についていなかったのだ。

だが、それにしても、日本でも、あのようなバドミントン専用の体育館、大観衆の中で試合ができれば、と思わずにはいられない。

〈第6回アジア大会〉

バンコクでも、いたるところ

にバドミントン専用の体育館がある。実にうらやましい限りである。

試合会場は、やはり風がはい

る。時間、コートによって風の方

向が変わるから、いっそう、大

変。でも、ジャカルタでの経験があるだけに、別におどろき

もせず、風を計算に入れてプレー

ーできるような努める。

実際に試合に出場したのは、対

N.B.I. の C.M. BRAND



バドミントンの気品
CMの風格

“ご存じですか”

- ★ 我国でシャトルコック製法を一番先に機械化して水鳥シャトルを普及したのはCMです。
- ★ N.B.I. はバドミントン普及発展のために製造から直売システムです。
- ★ 現金でお申込になれば卸価格でお家の出来ます。

日本バドミントンインタストリ株式会社

東京都三鷹市井ノ頭4-8-7

TEL 0422 (47) 3331(代) 3

バドミントン界の実情を探る

ルトノ「復活」さす

観衆、だが理解度も高い

日本チーム・コーチ
板垣隆房



▲ 羽田を出発する日本チーム、左から（前列）谷口、鷲尾、川端、小島、梅野尾（後列）本間、秋元、西尾、相沢、湯木、竹中、板垣

親善試合といっても、いわばアジア大会の前哨戦。大事な対戦なので、打ち合わせ会を開いた。インドネシアでは、国際試合は四年ぶり。観衆が国際試合に飢えていて聞いていたので「観衆の興奮が試合の支障にならないよう」申し入れた。

インドネシアの会長も、これは「心配しており、新聞・テレビを通じて、試合場にかガミ、ピンなど危険物を持ち込まぬよう注意している」と答えた。

●ダフ屋さんも横行
前売り券は三百ルピア、五百ルピア（一万五千元）二万五千円（二万五千元）だったが、プレミアがつき、五百ルピア、八百ルピアにハネ上がった。

当然、体育館のまわりにはダフ屋が大勢いて、われわれにま

●通関前に記者会見
ジャカルタ空港に着くと、通関手続きの前に報道陣に囲まれ記者会見をやらされた。税関はフリーパス。おどろくことばかりだった。試合に先き立つ記者会見には、テレビ関係もふくめ五十余人が押しかけ、インタビュウになれない我々をドギマギさせた。

●軍隊が警備に当たる
会場は、事実、インドネシアでも特に優秀な軍隊が武器を持って警備、試合が始まってからは、カギをかけて、体育館に入れぬようにした。

観衆はすごかった。体育館は収容人員一万一千といっていたが、男子の試合では一万五千もつめかけた。座席のない客はコートのそばまでいっばいになり、フロアに坐ってみた。

この数は、前のト杯決勝のときより多い。第二日の女子の試合にも八千人はいった。

1. コートの内外で

あるが、この間、各国の選手のプレーを見ることができたこと、また、小島先輩などに、連日相手をしていただいたことなど収穫は大きい。

ハルトノ選手のスマッシュを軸にしての攻撃力と、確実なレシーブ。「攻撃こそ防禦であり、

また防禦こそ攻撃である」という感じを受ける。

グラナ選手の長身を生かした、スピードのある鋭いスマッシュ、それと同じフォームから打つ早いカット、この二つの組み合わせによる強力な攻撃力。シングルス決勝戦は、この攻

撃力が、ムルヤジ選手の粘りに勝ったといえよう。しかし、ハルトノとグラナを比較した場合、そこに防禦力の差を感じざるを得ない。

ジャカルタ、バンコクを通して、自分の基礎体力、基本技術の不足を痛感、今後、徹底的に

これらの養成に努力するとともに、この機会に今までの自分のバドミントンをこわし、二年後を一つの目標にして、インドネシア、マレーシアに対抗できるようなバドミントンを追求していきたい。

また、どんな条件の下である

うとも、臨機応変のできるプレイヤーになることも、忘れてはいけない。

とにかく今は、どんなことがあっても、この経験を生かし、「打倒インドネシア」に一步でも近ずかねばならないという心境である。

インドネシア

世論がハ 1万5千の大

で、切符を売りつけるのには閉口した。

●影の演出者々 ぶり発揮

観衆は騒がしい反面、バドミントンをよく理解しており、ムードを盛り上げた。

ラリーが続き出すと、それに付れて声援がしだいに大きくなり、終わると拍手の集中である。スコアがオールラになった場合にも、いちだんと拍手が

おこる。

よき観衆は、よき試合の影の演出者々であることを実感した。マナーが悪いといえどそれまでだが、みんな、よい席をとるためには、競争で走ってくる。熱心さも合わせ、競技の理解度では、日本の野球の観衆と同じである。

ちなみに国内試合入場料は百—二百五十ルピアとのこと。

2. 国技としての内幕

●熱心なシャトル対策

「会員はどのくらいかわからないが、十万人はくだらない」インドネシア協会の役員はいつていた。日本でもレクリエーション人口を入れると大変な数だろうが、日本協会の登録者は約一万五千である。このへんに両国の微妙な熱度の差が感じられた。事実、この国では、どこにいなかへ行っても、場所さえあれば（もちろん戸外で）シャトルを追う一般大衆の数は、すぎまじいほどであった。

クラブが発達している。個人個人がお金を払って練習するわけだが、実際はお金の集まりが悪いので、オーナーが自腹を切ってクラブを維持しているらしい。ただし、インドネシア協会

も小額ながら、試合の収益をクラブ援助にまわしている。

クラブで使ったシャトルは、いなかの子供たちに送られる。シャトルといえば、アジア大会の使用シャトルが、タイ製のイーグルに決まると、協会役員はバンコクまで出かけ、これを仕入れてきた。

これが日本との親善試合で明暗を分ける一つの要素にもなった。こうしたシャトルへの取り組み方は、とても大切なことであり、日本も見習うべき態度であると感じた。

●ピラミッド型の育成法

国内では日本のように大規模の各種大会はないようだ。しかし、うまい選手育成策がとられている。

まず、地方ごとの対抗戦で若手を育て、つぎに、地方代表による対抗戦をやる。地方は東・西・中部ジャワ、ジャカルタ、ジョクジャカルタの五つに分かれていく。

これで勝った地方と国の代表（ナショナル・チーム）とが最後に対戦する。七〇年はジャカルタ市が国の代表に挑戦権を得た。その他、地方では安い参加料でジュニアの試合がある。

●代表は国民のアイドル

代表選手の仲間入りするとT.C（国立トレーニング・センター）で練習できるようになる。ここには、常時、男女十人ぐらいつつがおり、トレーニングは週五日、シャトルを打つのは四日（朝と夕方）とのこと。

コートは二面で、宿舎完備。代表たちは金銭的な保障問題で不満をもっているらしいが、経

水鳥 検定合格球

ファスト ゴールド
ファスト シルバー



ファスト印シャトル
コック 製造 発売 元

有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28

電話 02362 (22) 3994(代) 3280・0545



済的には不自由しないのでは、と推察される。指導は一貫しており、代表は国民のアイドル的存在である。

●これには、つぎのようなエピソードを紹介した方が早いかもしれない。それはハルトノのこ

とだ。

日本に流れたウワサによるとハルトノはパイロットになるため、競技生活をやめた、とのことだった。事実、一次試験をパスしたが、二次の前に新聞が、「ハルトノはバドミントンをやめるのか」という特集を出した

のを発端に、協会、政府から説得(圧力?)があり、希望を一時断念、ア大会に参加した。トレーニング期間が短かったため、ア大会でもシングルスにエントリーされなかったが、政府からは「体育指導員」のよう役職をもらった、という。

かつての名選手の情報——ソネビル氏はIBF理事となり、協会のアドバイザー。タン・ヨン・ホックはメキシコのコーチ、ダルマジはパイロットとして米国で訓練を受けている。

ア選手たちには、一試合ごとに経済的なものがついてまわっている、それこそ必死。日本との気力の差となって現われる。環境のちがいをうんぬんしても仕方がない。日本が、インドネシアに勝つには、彼等に倍する努力、気力が必要である。

アジア大会の代表チームは、大会の直前、十一月末にインドネシアに遠征し、男女とも団体対抗の親善試合を行なった。

この試合はインドネシア協会主催、テイジンがカップを出したほか、日本の遠征を援助した。

このため、これをめぐって、一部新聞には「アマ違反か」と大きくとりあげられたりしたが、これは誤解にもとづくものであり、このいきさつについては次号のアマ規定問題と合わせてお伝えする。

さて、遠征の結果は、不利とみられた男子が0-5で完敗したばかりでなく、女子も2-3で苦杯をなめると、予想外の結果となった。

これは、主として①初めて使ったタイ製のシャトル(日本のものと逆方向にカーブする)②コートに風があった——という不慣れな条件下におかれたのが原因。

もちろん、どんな条件でも勝

てる力と気力は必要だが、ともかく、この対戦によって、アジア大会用シャトルを知ったこと相手の手の内がわかったことが「本番」に役立った。

◆男子

インドネシア 5-0 日本

○ムルヤ 2 (1515-78) 0 小島

○ダルマ 2 (1515-312) 0 本間

暑さと風は覚悟していたがシャトルが、これほど悪いとは思わなかったので苦勞した。

コートへはいる前は、オーバーワークにならぬペースでと考えていたが、いざ始めると、観衆とムードで、つい自分の体力を早く使いすぎた。

1ゲームはシャトルに慣れず2ゲームは完全に相手にのせられた。ダルマワンはダルマジに似ているが、彼ほどタマの切れはない。しかし、早いタッチでシャトルを落してくるため、一

球目はとっても、二、三球目で体勢をくずされた。

●ユビス 2 (1515-115) 0 谷口

「ハルトノに似ている」と聞いていたので、スマッシュとネット・ダッシュの早さに注意した。はたして、確実にコースを突いてくる鋭いスマッシュ、ダッシュの早さにやられ、終始、相手のペース。結局、相手のスマッシュをレシーブしきれず、守勢にまわってしまった。

試合前、梅野尾さんとネット前の突きだけは早く、思い切っ

て出ていくよう話し合った(とくにサーブとサーブレシーブのつぎのタマ)

それがきいて、相手アタックを防ぐことができた。プレー自体それほど差は感じられなかつ

たが、スタンド、風、シャトルへの不慣れでやられた感じで残念。

このダブルスは攻撃は抜群だが中間コースのレシーブがやや甘い。インドラグナワンのレシーブは完全にバックハンドレシーブで、ツポにはまると強いがミスも多い。

◆女子

インドネシア 3-2 日本

○ミナル 2 (1111-04) 0 竹中

ウタミ 1 (1611-1111) 2 湯木

○ヤレシ 2 (11123-6911) 1 相沢

○ミナル 1 (81511-15915) 2 竹中

○スルハ 2 (1515-53) 0 西尾

不慣れなシャトルに悩む

＝インドネシア遠征には完敗＝

男子は1勝もできず、女子も苦杯喫す

特派員の現地ルポ

サンケイ新聞

木村 照 夫

アジア大会のハイライトの一つはバドミントンの女子、湯木博江（日女体大）とミナルニ（インドネシア）の対決だった。十二月十八日、キチカチョーン体育館で行なわれた女子シングルの準決勝は、二人にとって事実上の決勝戦。しかも、昨年のユーバー杯東京大会以来1勝1敗で迎えた三度目の対決。女子の全種目制覇ができるかどうかは、この試合にかかっていた。



▲激痛に耐え切れず倒れたミナルニ
(共同フォートサービス提供)

激痛！泣き叫ぶ “褐色の女王”

ハ・プ・ニングの幕切れ、湯木×ミナルニの対決 湯木もおおざめ、逆転にことばなし

そこでハ・プ・ニングが起きると、だれが予想できたろう。

十年のキャリアを誇り、バドミントンの国インドネシアで「女王」といわれるミナルニは黒い精かなからだにファイトをたぎらせ、鋭い目で相手を見すえ

て鋭いスマッシュ。十二日の団体戦で湯木にせり合い負けをくったお返しをとげようと、第1ゲームから「ゆさぶり」をかけた。

出だしは5-1と好調だった湯木も、サイドラインをねらったシャトルが風に災いされて決まらず、あつという間に逆転されて7-11。第2ゲームも動き

と短い叫びをあげ、ヒザをかかえるようにして、コートに倒れた。そして、オイオイ泣きじやかった。

東南アジアの女性は人前であつたに声をあげて泣かないそうである。だとすると、容易ならぬ激痛がミナルニを襲っていたのだろう。大会第五日の国立競技場で悲運に倒れた陸上の紀政

が重く、せり合いから7-8とリードを許した。このときである。湯木のドロップショットを拾おうとネットぎわ左に飛んだミナルニが、ヒザからくずれるように倒れたのは……。

ニガ笑いの表情で、ミナルニはコートサイドに横たわり、医師に右ヒザをもんでもらった。

数分後、サポーターをつけて立ち上がった。この間、湯木はイライラしどおし。若い西尾真理子（四条畷学園）を呼んで肩ならしをつづけた。試合再開。湯木は右スミに高いサーブを開ち上げた。と、どうだろう。シャトルを追ったミナルニが「アッ」

（台湾）のように、ミナルニはかつがれ医務室へ運ばれた。もらい泣きのウタミ、レトノのかたわらで、スマルソノ監督は、「こんなことになるとは予想もつかなかった。ダブルスでもられないだろう」と、途方にくれた。

タイの主審は、こんな幕切れで終わらせたくなかったようである。「第2ゲームは11-8で湯木の勝ちとする。だから、試合はフルゲームで続行だ。ケガの手当てがすむまで、しばらくタイム」と、ルールにないことを持ちだした。しかし十五分たっても、ミナルニは立てない。

結局、棄権勝ちということで、湯木はリードされていた試合をひっくり返した。

思いがけないフィナーレは、彼女をすっかり興奮させた。青ざめた湯木は、更衣室にかけ込んだまま出てこない。長い時間かかって、やっとでてきたとたんに涙を浮かべて、「わたしが負けた試合でした。こんな試合では、勝ったところで喜べません。最後まで争って勝ちたかった」と、つぶやいた。

ホッとしたのは川端昇市監督である。監督は「これで、シングルの金メダルは九分九厘確実。ダブルスと、すでに決まった団体戦とで、女子の全種目制覇は確定的になりました。ミナルニには気の毒ですが、湯木のテクニクの方がまさっていた。ミナルニは、もう体力の限界がきていたのです」といった。

「女王」は医務室で寝たきりだった。泣き叫ぶことばはインドネシア語なのでわからない。またもふえそうな日本の金メダルに腹が立ったのか、若いタイの係員は怒った顔で手を広げたとみえて、見舞いのことばも忘れたように、ただ、ぼう然としていた。

「乱気流」に悩まされた日本勢

望まれる環境克服の技術と気力

夫 範 林 小 新聞 売 読

アジアのバドミントンは、男女とも欧米のレベルをしのいでいる。だから、アジア大会のバドミントン競技は、すばらしい技術、息づまるような激しいラリーが見られるに違いない——アジア大会の特派員として、バンコク行きがきまったとばかりから世界一流のプレーを観戦できることを楽しみにしていた。

だが、ひとたび会場のキチカチョーン・スタジアムに足をふみ入れたとき「これがアジアのバドミントンなのか」と自分の目を疑った。すばらしいプレーもないではなかったが、目立つのは一流であるはずのプレーヤーの信じられないようなミス・ショットばかり。一体どうしたというわけだろう。

原因はすぐにわかった。会場の上空（といってもフロアの上3層付近）に乱気流が生じていたのだ。

キチカチョーン・スタジアムは、四年前の第五回アジア大会のさいに建設されたタイ国自慢の近代的な屋内競技場で、イスのひじかけの部分から冷房用の冷たい空気が出てくるという豪華なものだったが、バドミントンの場合、少しでも風は禁物。そこで冷房をやめて、出入口からわずかの風がはいるようにしてあったのだが、この出入口

が、フロアから3層くらいの高さ、つまりシャトルがとびかう高さにあったから、わずかに5層たらずのシャトルは、その影響をもろに受けた。

しかも、悪いことに競技場は円型である。「乱気流」というのは少しオーバーかもしれないが、それに近い状態であったことは事実。この風が、高度な技術を阻害していたというわけだ。たとえば男子団体戦準決勝で



▲スタンドで取材にあたる日本の特派員たち。前列右から小林（読売）板垣コーチ、中村（共同）そのうしろ木村（サンケイ）板垣のうしろ田中（中日）の各記者

特派員の現地ルポ

インドネシアのムルジャジと対戦したエース小島は、再三にわたって、相手バック・ラインのさらに後方50秒のところにシャトルをとばして首をかしげていた。

当てただけで
出てしまふ

バック・ラインを50秒も割るなどということは、常識ではとても考えられないこと。「風上に立つと、ちょこんと当てただけでスーッと風に乗っていつちやうんだ」とさすがの小島がブ然とした表情、それでもベテランらしく、個人戦では風を計算にいらたうま味のあるプレーをみせてくれた。

これに反して、体調不十分だった女子の竹中は、テクニシャンというよりはむしろ強打型だったので、真つ向から風の影響を受け、女子団体戦準決勝ではインドネシアのウタミ（ハルトノの妹）に敗れ、同決勝でもタイのベテラン、トンカム（三）にも負ける大番くるわけ。わずかに相沢と組んだダブルスで活躍したものの、さんざんな出来だった。

大会のムードをいちじるしくそいでしまった風のいたずら——だが、ここで考えさせられることは、インドネシア、タイ、マレーシアなどの一流プレーヤーの中には、風をまったく気にしない選手、いや、むしろ風をうまく利用した選手がいたという事実である。

そのいい例が、男子個人戦シ

ングルス決勝で、新鋭グナラン（マレーシア）に善戦して敗れたマルジャジ（インドネシア）。マルジャジは、第一ゲームで風下のコートを選んだため、徹底してシャトルを拾いにまわり、決して強打に出なかった。そして第二ゲーム風上に立つと、こんどは一転して早いポイントで

スマッシュに出た。

切りかえのよさに

拍手

結果はグナランのジャンプ・スマッシュを中心としたスピードに敗れたが、その切りかえの良さに目の肥えたスタンドのファンから惜しめない拍手がおく

られていた。

このほか、すっかり円熟味を増したサンゴブ（タイ）世界No.1のハルトノ（インドネシア）など、世界のベテランは、いずれも風を苦にしなかったようだ。日本で開かれる国際試合は、いずれも国際公認球のRSLが使われ、風と無駄な光を完全に

シャット・アウト、ほぼ理想的な状態で試合が行なわれている。まことに結構なことだが、このことが、〆弱な選手をつくることに拍車をかけてはいないだろうか。

バドミントンは、非常にデリケートなスポーツだ。そしてそのデリケートな点が面白さの大

バンコク見てある記

盛んな子供の屋外バドミントン

|| サッカーと並ぶ普及度 ||

露路にロープ風の中でも気にしない

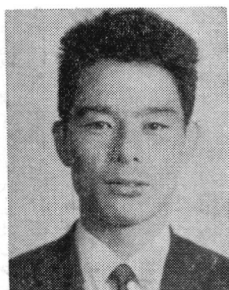
幸運にも、西尾真理子が代表に選ばれたのを機会に、一度、国際試合なるものを見たいと、かねがね思っていたので、学校に無理をいって、西尾のパートナー秋本八代美とともに、バンコクを訪れた。

熱気におそわれた。ちょうど、夏のデパートから外へ出たときと同じ状態に驚かされた。

日本では、おそらく車検に合格しないであろうオンボロ・タクシーに乗って、市街にはいっ

彼女らは、さきにインドネシアの遠征から帰ったばかりであり、外国での経験は、むしろ私より先輩であった。

ややこしい手続きを終え、なんとかバンコク空港へ着くと、とたんに、ムーンと、むし暑い



四条巖学園高校

監督 片岡輝明

た。車の窓から、子どもたちが露路でサッカーやバドミントンをやっているのが目につく。

話には聞いていたが、道ばたでバドミントンをしている風景は、日本では、あまり見ないの

で、珍しく感じるとともに、なんだか、うれしいような気がした。街を歩いてみると、いたるところで、同じ風景に出くわす。われわれバドミントン指導者としては、この競技が国内でマイナー・スポーツと見られている

ことに、抵抗と反発を感じていた矢先きだから、このように、国民的スポーツとして、根をおろしている国は、大変うらやましい。

タイ在住の日本人に聞いたところでは「日本で野球のキャッチボールをするがごとく、彼の地では、サッカーとバドミントンが普及している」とのこと。

せまい道にロープを張り、おそまつなラケットで遊んでいる。日本とちがって、風があまり強くないのかもしれないが、彼らは、風が吹いていても、全然気にしないで、平気でやっている。

この点、日本のバドミントン愛好者は神経質で、室内の、それもかなり条件のよいところでもしか「プレーができないもの」という先入感で、きめつけてしまっているように思う。

事実、アジア大会のバドミントン会場も、風がはいつてきて

きな要素になっているのだが、国際舞台で活躍しようというトップ・クラスの選手には、環境の変化にすぐ順応し、それに対処できるたくましさが必要。日本のバドミントンの最大の弱点を、アジア大会で見たといえるようだ。

いたし、照明の設備も、裸電球そのままだという、およそ日本では考えられないところで、競技が行なわれた。どこからも苦情が出たとは聞いていない。考えなければならぬ点だと思ふ。また、サッカーはバドミントン以上にさかんで、広場では、これも数人の子どもたちが、むかしの蹴鞠（けまり）みたいなことをして遊んでいる。

輪になって、お互いに蹴っているのだが、実に上手で、めったなことでは地面に落さない。なかには、背中越しに落ちてくるボールを、足のかかとで蹴り返すという、奇術まがいのものもいて、感心した。

遊びの中からバドミントンやサッカーの選手のタマゴが生まれている。強いはずである。ふと「日本に、もし野球がなければなあ」という、野球関係者に聞かれたら、叱られそうなことを考えた。

日本の少年たちのアイドルはプロ野球の選手であり、新聞・テレビも、野球ならでは夜も明けぬくらいであり、親たちもまた、バドミントンは知らなくとも、王や長島を知らない人はいない。

全く、この歴史的相違の事実は、残念ながら、どうしようもない。スポーツ店へ行って見たが、やはり目にとまるのは、サッカーのボールと、バドミントンの道具である。野球の用具は気がつかなかった。

「メーカの方にお願ひですが、日本の気候でも、多少の風に影響されない、重い、大きいシャトルを作ってみたら、いかがでしょう。」

現在、市販されているナイロンの遊び道具は、戸外では不向きです。飛ぶ距離も長くなってもよい、テニスとバドミントンの合いの子のようなもの、学校の運動場で、子どもたちに遊ばせることのできるものが欲しいのです。コントロールも、フォームも関係なく、丈夫なラケットで、ドッジボールをするように、広いところで、やらせたいのですが……

日本では、学校体育の中で養成されたエリート選手を、お金をかけてさらに磨き、財力でアジアの選手を打ち負かしている

感じがする。

実際、タイの国民生活のレベルが低く、平均して日本の三分

スタンドはさながら “騒音公害”

ひどい地元審判の判定ぶり

新聞等書かれたとおり「アジア大会は日本の競技会である」というのも、うなづけるフシがある。

のくらの収入で生活しているわけだから、やたらと永年にわたってスポーツを続けることはできないと思う。

はできないと思う。

飛べないかもしれない”などと皮肉をいっていた。なにか、日本人としては、喜べないことばである。

しかし、タイ在住のある日本人は、こんなふうにいっていた。

「日本は経済大国であると同時に、スポーツ大国であることを見せつけてほしい。そうすることによって、日本人はお金もうけばかりを考えているのじゃない、あらゆる分野で『大国』なのだ、ということを示して欲しい。私たちの肩身が広くなります」

さて、バドミントン会場のキチカチーン体育館は、前記のとおり、コートそのものは、あまり良い状態ではなかったが、なにしろ大きく、特に観客席が多い。私は日程の都合で団体戦のみ見学したが、地元タイの試合には、私が今まで見たことのない大観衆が詰めかけた。

そのマナーたるや、甲子園球場のアルプス・スタンドである。やかましいなんてもんじゃない。あきれかえった。エキサイトすると、コート内に物が投げ

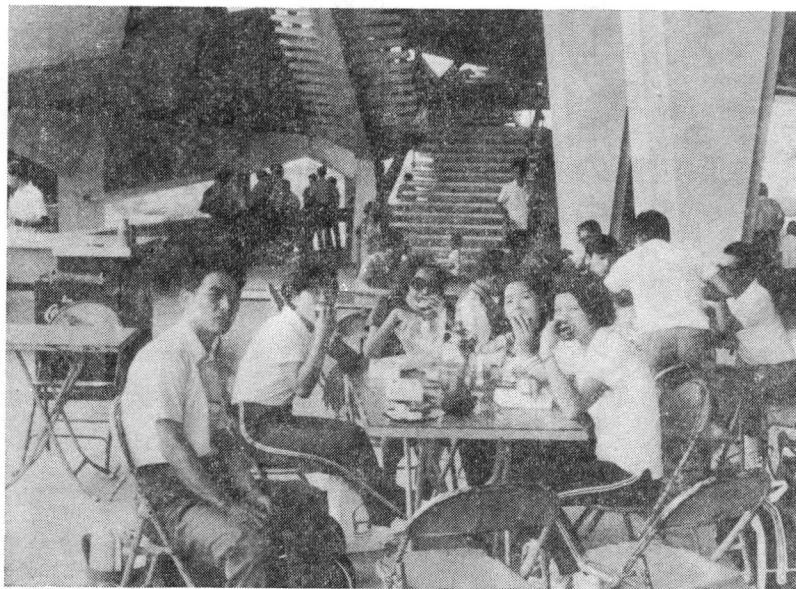
込まれる。軍隊が警備しているなかで、プレーが行なわれている。「バドミントンは紳士のスポーツ」と、何かの本で読んだ気がするが、なにが紳士なのか。

タイの審判のずるいこと。出ているタマでもセーフ、こちらの打球は、ややこしいのは、ほとんどアウトのジャッジである。観衆の気持ちになって採点しているのだから、選手はたまったものじゃない。竹中選手はだいたい被害にあっていた。

ハラが立ったが、タイにとっては、バドミントンぐらいしか『金』の可能性がないのだから、無理ないかもしれない。とにかく、そんな中で女子は完全優勝を成しとげた。男子は惜敗したが、いつの日かインドネシアを破って、ト杯を日本へという悲願を達成したいものである。

今回の機会は私にとって、さまざまな面で大きな収穫があった。バドミントンに対する愛着と闘志が益々、つるの経験であった。

未熟な高校生をメンバーに加えて下さった協会の理事長はじめ役員の方々、リードして下さった選手団諸先輩の方々に、紙上から厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。



▲日本女子チームと。左端が片岡先生

公 告

日本バドミントン協会では総会の決定に基き、昭和45年度の協会
検定、審査合格および協会推奨の用具を、本欄のように決めました
ので、ここにお知らせします。

昭和45年 4 月 1 日

日本バドミントン協会

昭和45年度日本バドミントン協会審査合格用具推奨用具

ラケット の部	銘 柄 名	会 社 名	ウエアー の部	銘 柄 名	会 社 名
	ラッキーセブン張上 (#7)	株式会社ヨネヤ マラケット		(男子)#106ショートパンツ	株式会社ヨネヤ マラケット
	スリーエート張上 (Na8)	〃		(男子)#107シャツ	〃
	クインハートフレーム (#1,000)	〃		(男子)#105ショートパンツ	〃
	カレッチエイトフレーム (#3,000)	〃		(男子)#108シャツ	〃
	カレッチエイトデラックス フレーム (#4,000)	〃		(女子)#203ミニスカート	〃
	ファイブエースフレーム (#5,000)	〃		(女子)#204シャツ	〃
	ファイブエースデラックス フレーム (#6,000)	〃		(女子)#202ミニスカート	〃
	レディエースフレーム (#6,500)	〃		(女子)#205シャツ	〃
	アルミナエースフレーム (#7,000)	〃		(女子)#200スカート	〃
	アルミナエースデラックス フレーム (#8,000)	〃		(男子)#104ショートパンツ	〃
	キングダイア (#2,000)	〃		(男子)#109シャツ	〃
	コールドキング	株式会社 諸江製作所		(女子)#206シャツ白	〃
	ダンロップ	〃		(男子)Na500 リース	河崎ラケット 工業株式会社
	キングクリッパー	〃		バドミントンシャツ	〃
	キングメイト	〃		(男子)Na533 リースバドミ ントンショートパンツ	〃
	シルバーデラックス	〃		(女子)Na500 リース	〃
	ハイ・スピード (Na2)	大阪合織 株式会社		バドミントンシャツ	〃
	ハイ・トーマス (Na3)	〃		(女子)Na592 リース	〃
	フィアレス (Na10)	〃		バドミントンスカート	〃
	フェニックス・	〃	シューズ の部	チャンピオン	〃
	インベリアル (Na30)	〃		バドミントンシューズ	株式会社ヨネヤ マラケット
	エクセレント (T-1)	〃		バドミントンシューズ	株式会社 諸江製作所
	ブルーリース (Na B-6P)	河崎ラケット 工業株式会社		アタックシューズ	〃
	エンバーウィン (Na206)	〃		アタックデラックス	〃
	カアルトンオールスチール ラケットスリーポイントセ ブン	日本カアルトン 株式会社			
	Na8 ウィンナー	株式会社 トヨダスポーツ			
	Na1,000 ニューミニ	〃			
	Na3,000 ブルー	〃			
	Na4,000 アルバート	〃			
	Na5,000 ニューアルバート	〃			

百万人のバドミントン上達法

どんなスポーツにも「頭」が必要だ。ただ、無我夢中で練習さえやれば強くなるわけのものではない。

もちろん、どんな練習も、あるていどまでは上達につながるが、そこに「考える」要素がなければ、合理性のないムダ骨折りに終わり、欠点がそのままになることもある。

すでに、バックハンドについて合理的なストロークを説明したが、今回も、これまでとつながりのある「考えるバドミントン」について述べていこう。

× × ×

(注・本稿はすべて右利きを基準に説明してある)

爆発的パワー、角度、コースの三要素。これが同時に生かされてこそ、スマッシュに価値が出る。

しかし、トップ・プレーヤーにとっては、スマッシュで決めるということは、そう簡単ではない。選手の技術向上も一因だが、もう一つ、バード自体が陸鳥から水鳥に変わったため、ポイントが取りにくくなったことにも理由がある。

陸鳥の場合は、腰が弱いため、打った瞬間、バードがすぼんで

しまい、スピードがついていたが、水鳥では腰が強いいため、空気抵抗が大きく、打っても打っても、スピードが乗らないためである。

そこで、ストロークを変えて打ってみると、従来のオーソドックスなバドミントン・グリップの場合より、パワーが加わり、スピードを乗せることもできるものである。

すなわち、スマッシュを打つときには、ウェスタン・グリップにするのである。

ウェスタンに対しては多様な「声」があるが、ことスマッシュに関しては、打面も広く、一番、合理的であると思う。自分の体重を全部、乗せることができるため、スピードも当然、早くなるのである。

では、実際的に、どうするか。返球されたと同時に、自分がスマッシュに行くかどうか、心の中で決めていくはずだから、そのときに、ラケットを、ウェスタンに持ち変えればよい。

もちろん、相手に気づかれないで、グリップを操作することは、いうまでもない。一回ごとにラケットを見ながらグリップを持ち変えるのではなく、相手の動きとタマを見ながら、ごく

スピード、ウェイトの点で合理的

スマッシュをウェスタン・グリップで

小さな選手は角度にこだわるな

自然に持ち変えるようにする。

スマッシュを行くにさいして自分のウェイトを全部かけようとすれば、必ず利き腕の反対方向(即ち左)へ抜き切ることである。打球の瞬間に力を入れ、同時にリストを利用して、左へ自然に流すようにする。

ラケットをヒザや胸元、あるいは腹のあたりへ打ちおろしている選手をよく見かけるが、それはマイナスであるばかりか、身体を痛める危険がある。

からだに当てないよう気をつければ、当然、フル・パワーで打つことはできなくなる。のみならず、ラケットを急停止させねばならないので、大きなエネルギーの消耗をまねく。

打つエネルギーより、急停止のエネルギーの方が大きいのでやはりラケットは自然に左の方へ流すようにしよう。次のモーションも、その方が早い。

要は、力というものは、必要ときにだけ使うようにすべきだ、といいたい。

角度については、タマ足・打点、身長・タイミング等によって一様ではないが、どこから打つにしろ、一番高いところ、即ち、背のびしてラケットを差し上げたところから打ちおろすの

が理想的だ。

身長の高い選手は角度にとらわれすぎて、確率を低くするよりも、タマ足が長くとも、パワーとコースを選ばべきだろう。

スマッシュで、特に注意を要するのは、下で構えて最上段で打ち、利き足は必ずうしろへ残すことである。野球の投手がオーバーハンドで投げたあとのフォームと同じことだ。

打った瞬間、利き足が前に出ている選手が意外に多いが、あれでは体重が乗りにくく、爆発的パワーは発揮されない。

なお、最初に書いたように、スマッシュは攻撃の武器にはならないが、必ずしも決定的な決め玉にはなりにくい。どんな目的で、どんな時にやるのかによって、その効果は一樣ではない。

つまり、時には、ゆるくても長いスマッシュが、時にはゆるくとも角度のあるものが、時には、角度をわざと殺して、スピードとコースだけのものが、効果的な場合もある。

要はゲームにのぞんで「なんのために打つのか」よく考えてやることだ。それがなければ、単なる「バカ力」の出しすぎで終わってしまう。

(前号より続く)

次の攻撃とは、スマッシュということになりますが、スマッシュを、より効果的に使うには拙速で強行しないことが大切です。

すなわち、ドロップに対する相手の返球がハイ・クリアーと仮定します。

①その場合、もう一度、同じ場所にドロップをやってみる。

そのドロップが相手の意表をついたものになれば、再び前進②後方に打ち上げてくれたクリアーが甘かったなら、そのときこそ、ホーム・ポジションへ後退する相手にスマッシュするか。

③あるいは、ドロップのレシーブとして相手があげてきたクリアーを、いち早く捕え(体力に自信ある選手なら、あわててスマッシュせず)ドリブン・クリアーで体勢をくずすよう返球しておく。

④威力のないチャンスの返球を待って、そのときこそ、クロスにスマッシュしてみる。

——など、一例ながら、心がけてもらいたいと思います。

さて、話を前号で触れた岩下選手の例に戻します。

岩下選手のドロップは、練習

ではネットすれすれに落下する

のに、試合になるとキレが悪く飛行距離の長いフライトになつてしまう——というところまで前号で例をひいたのでしたね。

このようなドロップでは、相手が楽な体勢でレシーブできるわけで、せっかく使う効果がありません。

ドロップを使うなら、二、三本ネットにひっかけても気にせ

③

「気にしすぎ」は失点のもと

岩下選手の場合を考える ②

ツマさき立ちのサーブに得失の二面

ず、思い切った短いフロイトで試合してほしいと思います。

反対に、相手からドロップで攻められた場合はどうか。ふつ

うなら、フォアの前が弱い選手が多いようですが、岩下選手の場合は、バックの前が弱いのです。徹底的にバックの前を拾う練習をすすめます。ダブルスでもバック打ちに欠点がありますので、後述します。

岩下選手は試合中に失敗する

と——たとえば、点を献上した、あるいはサービス・オーバーになつてしまった——それにいつまでも、こたわるクセがあります。

その結果、相手に連続ボイントを与えてしまうようなことが、ままあります。みなさん自身で、思いあたるフシはありませんか。

試合中は、多少のミスは気に

参考になります。

岩下選手と同じサービスをしている方は、自分と比較するたに研究していただきたい。その他の方は、彼のサービス・フォームを見ておけば、同型の選手と対戦したとき、惑わされずにすむばかりでなく、見当をつけることができます。

他人のプレーを見る場合にはこうした心がけが必要です。自分

分となにがちがうか、それはなぜか、を常に注意するようにしたいものです。

この岩下選手のサービスは、ラケットの打面にシャトルが当たる寸前、ツマ先き立ちになつて、ラケットを持っている手首を外側にまげてから打つ点に特色があります。

すなわち、からだの伸び上がりと同時にシャトルが放たれるので、レシーバーは、感覚的に

「ドリブン・サービスが来るのではないか」と自己暗示にかかり、前進を阻止されてしまうのです。

では、あまりほめられない、と述べた意味はなにか。

それは、バードがネット上を通過するときの高さが、高すぎるといことです。からだが浮くので、目標が決まらないことが、一つの原因でしょう。

このような「甘いサービス」のプレーヤーは、意外に多いものです。

こうした場合は、あと五センチぐらいさがった位置からサービスをやってみると、フライトの一番高いヤマが自分のエンドにあつて、ネット上を通過するときは、それよりも低くなりま

低くなれば、レシーバーのラッシングを防げることになりま

す。ショート・サービスは、本来「ショート・ロウ・サービス」であることを忘れないようにしたいものです。

岩下選手のタイプの選手が、からだでのフェイント・モーションを、よりいっそう活用するのであれば、ショート・ロウ・サービスを、もっともつと練習しなければなりません。

必要“底辺”と“強化”の融合

百年の大計を考えよう

ユ杯の防衛にも油断は大敵

昨年度、女子はトップ級に脚の故障があり、王座揺らぐかに見えたが、上部の層の厚さを、欧米の老化と、東南アの未熟とが、日本の王座維持を容易ならしめたといえるだろう。

男子は幾度か、世界最高峰への登頂に挑んだが、時には選手自体の体力、技能の不足から、時には悪天候（条件）にはばまれて、果たし得なかった。

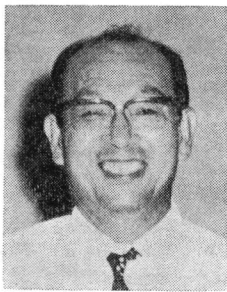
考えてみると、最近の日本のレベルアップには瞠目すべきものがあり、特に女子の場合は、それが著しい。まるで、東と西との追いつき合戦の観がある近年である。

東が台頭すれば、西のだからこれを押え、押えたかと思うと東の新人が巻き返し、それもすぐに西に追い越される……というわけで、敗れぬまでも、トップにあるものは常にうしろから追われつづけた。

全英から、社会人、国体から、

全日本総合、全日本学生、それに数々の対外試合、息つく間もないスケジュールが、選手を精進にかりたてる。

男子の場合も、ほぼ、これに等しい状態であるが、ただ、女子の場合と異なるところは、東西の競争が全然、見られないということである。



この十数年、西の男子は押さえられつづ放しといっても過言ではあるまい。東高西低のまま、一向にうだつがあがらないのである。

西で育った高校生が東の大学、東の職場に吸収されてしまいうからという人もあるが、西の各県指導層の奮起が望まれる。

が、しかし、問題は、ただ単なる奮起だけでは解決しない、それ以前の問題を多く抱えている。女子も決して油断はできないし、男子は抜本的な対策を講ずる必要がある。シドニーでユ杯の王座を日本に奪われて以来、アメリカはまだ巻き返しにできないが、水泳の例もある。

米国はかつて第十回のロスアンゼルス・オリンピックまでは、日本に押さえられていたが、雌伏十年、ほとんどの少年少女が

温水プールに恵まれるという環境作りに乗りだして、現在では日本のしごきの、急造的、あせりムードを尻目に、ゆうゆうと世界のトップを泳ぐ態勢を確立してしまった。

これと同じような事態が、パドミントン界に起こらないとは断言できない。今まで、アメリカは、どちらかといえば、パドミントンを軽スポーツ、レクリエーション的なものと見なしていたようだ。

水泳の“二の舞”はごめんだ

そのアメリカが、バド界に選手を送りだして、ススポーツとしての場々で日本に度々、敗れたとなれば、そのプライドが到底、許さないだろう。水泳と同じように必ず巻き返しがかかる。

セット物であるが、日本やその他の国で製造されるラケットが、多量に米国に買われている

ことは、先刻、御承知の通りである。

アメリカは乳幼児や老壮年の体力づくりでは、日本より二十年以上先輩である。私が本誌上で昨年来、強調しつづけた「種をまき苗を育てる」ための手は、アメリカでも着々と打たれているはずだという気がしてならない。

い。

見えぬカゲにおびえるようないい方だが、スポーツは結局、国力が最後にモノをいう。アメリカの国力が、まだ、パドミントンに反映していないだけであって、それがいつ反映しないとも限らない。

やる気になれば、二十年とはかからない。十年あれば、十代の少年少女が二十才の青年になる。素質のある者がその環境に恵まれば、五年の歳月で猛者に成長する。

追い越されるなど気付いたときは、大いに関に合わないものである。全く油断はできない。ということは、逆にいえば、日本の男子も大いに希望がもてるというものである。

全国のプレーヤーとまで拡がらなくても、各県、各市町村の指導者が、少年少女にラケットを握らせることに、真陰に取り組めば、道はそんなに遠くないのである。

いま、世界のトップ級の女流が、つい七、八年前までは、おさが髪のお愛らしい少女であり、いづれも優秀な指導者に見出され育てられたその道程を考えれば、背けることである。中央に集めて合宿させたから、これ等の選手が生まれたのではない。少年少女時代に、そのすぐれ



少年少女も大きく成長する。

▲芦間登美子・絵

末端指導者に愛情を

た素質を、たまたま優秀な指導者に見出されるチャンスにめぐまれ、中央に出て、それに磨きをかける場を与えられたからこ

そ、生まれたのである。磨こうにも、もともとの素材がすぐれたものでなければ、研磨材が減るだけである。

この「見出し出す」「育てる」世界の主現なくして、たまたまやるようになったものを集めて大会を開催し、バク大な計画をついやして合宿し、遠征するだけでは、ことは解決もしなければ、進展もしない。

き人は、会長や理事長、レフェリーやお偉方だけでなく、それを見出し、育てた地方の中学や高校、或いは、街の指導者も加わるということでなければならぬ。

この精神が尊重され、予算配分もこれにあわせて行なわれ、

改めて、種をまき苗を育てる世界が見直されない限り、日本のバドミントン界は、やがて行きづまり、陸上や水泳のように、といったは失礼だが、強国の後塵を浴びつつけることになるだろう。

誤解のないようにして欲しい。私は仕上げの段階を軽視しているのではない。いや、その段階を尊重すればこそ、敢えて、苗を育てる世界の充実を強調してやまないのである。

(日本協会指導委員長・伊藤基記)

□ □ □ □ □

※学連新役員※

◆全日本学連

※委員長 桐竹 賢(早大)
※同副 保坂佳人(日体大)
清水英俊(関学)

◆関東学連

※委員長 鈴木信夫(明大)
※同副 表 義章(電大)
※会計 表 義章(兼任)
※会計監査 柏木葉子(成城)

◆関西学連

※委員長 山崎修二(大市大)
※同副 清水英俊(関大)
竹原伸幸(神商大)
斉藤彰秀(立命大)
※会計



あの娘の瞳が
トヨタを選んだ

本年度公式大会使用球

トーナメント (ブルック
ブラック
レッド)



トヨダスポーツ

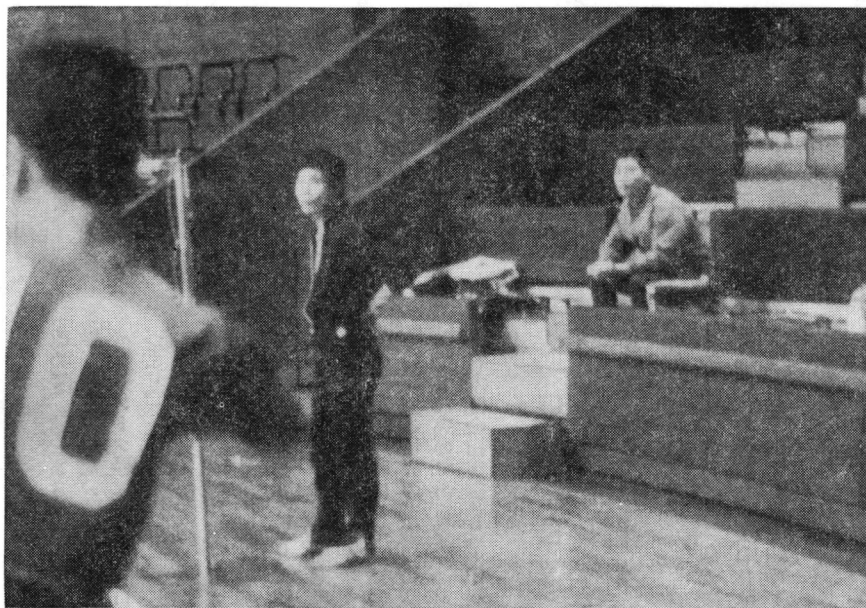
東京都台東区浅草橋5-26-7
TEL (851)9409・(866)2515



伸びゆく日本体協の同好会

＝国立競技場との親善試合に圧勝＝

「運動会」では人気独占のメインイベント



新春一月十二日、国立競技場代々木第二体育館で、バドミントンの試合が行なわれた。といっても、さきに同コートで開かれた全日本選手権とは、あまりにかけ離れた内容ではあったが、一生けんめいな態度と楽しさとしては、勝るとも劣らな

いものであった。それは、日本体育協会の事務局職員と国立競技場職員との親善試合で、体協事務局にバドミントンの同好会が生まれてから対外試合としては二度目のものであった。東京オリンピックが開かれた

年に、日本体協は、お茶の水から神宮の森の端に移転してきた。それ以来、だれが意図したのでもなく、自然発生的に、いつの間にか同好の士がバドミントンに集まるようになった。そして、本誌第10号にも紹介されたが、昨年六月二十二日に、日本協会の川端理事長から日本体協の中島事務局長が「社会体育としてバドミントンが最適で

ある」むね、おすすめいただいたのを機会に、職員の間にも非常に親しまれるようになった。最近では、秋の運動会には欠かすことのできない人気種目にまで成長してきた。その間、何度か、日本バドミントン協会からの用具の寄贈など、好意あるご援助が大きな支えとなっていた。

新年度には正式クラブに脱皮へ

現在のところ、計画的に練習するまでにはなっていないが、高校、大学時代に経験した林、須山両主事を中心となって、屋休みとか、勤務時間後の地下体育館では、喜々としてシャトルを追う男女職員の姿が、コートいっぱいにみられる。

の親睦会があって、職員の同好会活動になども、積極的に援助しているが、バドミントン同好会も、新年度にはクラブ組織を確立して、親睦会公認の活動に発展させるべく、現在、準備中である。

さすがに、スポーツの経験者が多く、当初にくらべて長足の進歩を示し、最近では林、須山の両リーダーも、若い職員に、ふりまわされるようになってきた。その自信が、対外試合に、応ずることになったものと思うが、これを機会に、アマチュア・スポーツの統括団体である日本体協が、スポーツ振興の実践を、身をもって示すことになれば大変、うれしい。

さて、親善試合は結果は別記のとおりで、勝負は体協が圧倒的に勝ったように見えるが、個々の試合では、技術に一日の長がある体協に対し、若さとフアイトで拾いまくる国立競技場が真っ向からぶつかり合い、いずれも、僅差で決まる非常な接戦であった。

なかでも、中村、大輪の両選手は、体協の主力である林、須山両選手をさんざん苦しめ、林選手はついにダウン、第三ゲームを棄権のやむなきにいたり、

須山選手は辛うじて勝ったが、後のダブルスのメンバーを急変変更しなければならぬなど、ハブニングが続出した。

満員？の両軍応援団の声援に励まされて、ふらふらになった選手と、声を枯らした応援団とが一つにとけ合い、非常に楽しい親善試合の成功に全員が満足

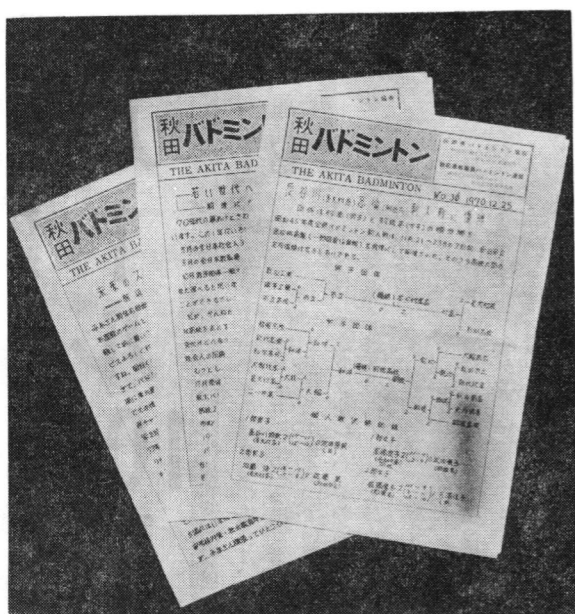
し、次の機会を話し合いながら終了した。(日本体育協会競技力向上課・射越栄一・横浜国大OB)

日本体協4-1国立競技場
○安部2(1111-24)0相白馬
池田

○加藤 留 棄 権	○須山 2	○佐藤 2	林 1
棄 権	151015	181415	棄 権
高 中	1015 4	131710	樵 15 5
谷 村	1 中	1 高 谷	2 大 輪

“未来のスポーツ、バドミントン”

秋田県の機関誌 週刊で盛んに活動中



ここに紹介する(写真参照)のは秋田県協会と秋田県教職員連盟が共同で発行している機関誌「秋田バドミントン」

毎号4ページを原則とする小さなパンフレットだが、ウィークリーで出ている。毎週の編集では、さぞ大変なことだろうと推察する。

競技会があるときは、競技が前面に押し出されているが、ふだんは、いろんな興味ある「読みもの」がのっけていて、おもしろい。

たとえば、第32号(十二月三十日号)では、一年のしめくくりについて触れ、

「高校生を主とする若い世代の台頭が欠けている…新旧の交

代がどんなにむずかしいかは、4月と12月の全県選抜社会人対学生対抗戦が、社会人の圧勝のうちに終っていることでもいえます。

もっとも、前途は暗闇ばかりではありません。次のような若い芽があります」

として、七月県体への中学生の初参加、市内銀行のバドミントン部創設準備、72年より中学校体育にバドミントンの参加：などをうたい、この競技が静かに全県にひろがりつつあることを示している。

また、第33号(新年号)では「新春打ち初めをさっそくやりましたか。お座敷のゲームとしても打ち初めはできますよ。バスケット(かご)を3×4メートル離して前に置いて下さい。新しいシャトルがいいでしょう。半ダースをサービスよろしく打って下さい。何個はいりましたか。団体戦でも個人戦でもできますね」

といった調子で、遊びながらの中に、バドミントンの基本を組み入れて、すすめている。そして「バドミントンはバレー、サッカーにつぐ『未来のスポーツ』として、底辺をひろげようと呼びかけている。

(編集部から)全国の皆さんの機関誌をお寄せ下さい。

山本君(慶大OB)がネパールのコーチに

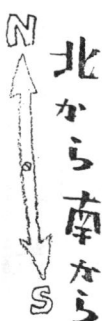
慶応大OBの山本次生君(四十四年卒、二十四歳)が、ネパールへ出かけていった。

山本君は文部省がやっている日本青年海外協力隊の事務局に勤務、試験を受けて、同隊の一員として派遣されることになったもの。

一月から約二年間、ネパール国文部省国立スポーツ評議会に配属され、国立スタジアムで学生にバドミントンを指導するほか、地方へも出張コーチに出かける予定。

スポーツ評議会は、今後、国際舞台へ進出をはかっており、バドミントンでは、アジア大会に出られるようになるまで、山本君に面会してもらおうというわけ。

先日、日本協会村山事務局長あてに届いた便りには「快適な毎日。宿敵のインド打倒を合意ことばに、がんばっています」とあった。



北から南から

早わかり競技規則 ルール100問？

連載

⑮
日本教職員連盟
審判部監修

10・フォルト(2)

一般共通

(規則第14・16・19条)

問77 サービスだけに限らないフォルトについて話して下さい。

答 これは、⑥アウト、⑦ネット、⑧オーバー・ザ・ネット、⑨タッチ・ザ・ネット、⑩ドリブル、⑪ダブル・タッチ、⑫スリング、⑬タッチ・ザ・ボディ、⑭インターフェヤーの9種類です。

サービスの際のフォルトと同じように、一つ一つのお話を進めてゆきましょう。

問78 アウトとは。

答 サービスで、シャトルがサーバーの斜め相手方のサービスコートの外に落ちたとき。第14条第2項、サービスでもプレー中でもシャトルがコートの境界線外に落ちたとき。

—第14条第5項—

条文の第2項の場合は、サービス・コートから出ても、コート全体の中に入っていることもありますので、その場合は、本当は、「アウト」とはいわないのです。

しかし、日本では、第5項の場合は勿論、第2項の場合にも「アウト」とコールすることになっていきますので、ここに一括しました。

これに関連し、(a) ネットをくぐったとき、(b) 天井や周囲の壁に触れたとき、の2点も、「アウト」ではありませんが、覚えて下さい。同じ第5項に書いてありますから。

この(a)(b)のフォルトの特別な名称はついていません。なお境界線上にシャトルが落ちたときは「アウト」でなくて「イン」とみなされることは知っていますね。やはり第5項に書いてあります。

問79 シャトルの台でなくて羽の部分だけがラインに触れても「イン」ですか。

答 そうした場合も仮想で考えますね。しかし、実際にあり得るでしょうか。とにかく、仮りにそういうことがあったとして考えてみましょう。

競技規則でシャトルの台と羽とを区分して考えているのは、以前にフォルトであった「フレイム・ショット」のときだけです。この場合には、特にハッキリ「台」という語が区別され、その他の場合は単に「シャトル」としてあったわけです。

ですから、シャトルのどの部分がラインにふれても「イン」と判定することになります。

ただし、ラインの直ぐ外側で、先ず台の部分が床にふれ、続いて、シャトルがコート側に倒れたため、羽の部分がラインにふれた場合は、「アウト」のフォルトがすでに生じた後ですからやはりアウトです。

これも、実際に起きるかどうかが怪しい場合ですが、前のシャトルの羽だけが先きにラインにふれるというのに比べれば、可能性は多いですよ。

問80 次は「ネット」でしたね。お願いします。

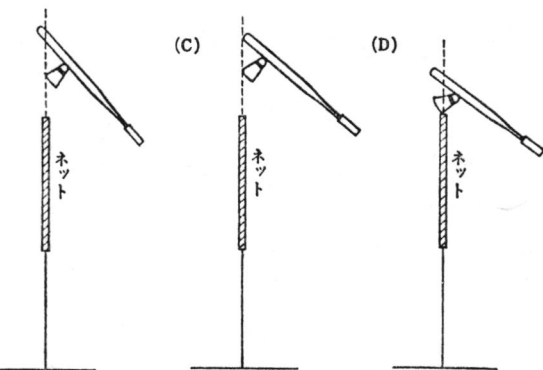
答 第14条第5項に第19条の説明を合わせ、仮りに「ネット」という項目を立てましたが「ネット」というコールがあるわけではありません。もしコールするのなら、単に「フォルト」といいます。

しかし、普通の場合は、主審はこのフォルトに関しては何も

コールせず、インサイドが勝ったなら「ポイント」、アウトサイドが勝ったなら、「サービス・オーバー」(ダブルスでは「セカンド・サーバー」のこともある)とコールした方がよいと思います。

サービスでも、プレー中でも、シャトルがネットを通りぬけたり、越えそなたたり、ネットの下をくぐったりしたとき。

—第14条第5項—



プレー中にシャトルがネットに当たってひつかかり、ネットに当たって打った人の方の地面に落ちようとしたら、コートの地面にふれた後で、相手がラケットや身体でネットやシャトルにふれても、そのときはシャトルはインプレーでないから罰はない。

シャトルがネットに当たってから、相手コートへ入ることがあります。俗に「ネット・イン」といいますね。ラリーの途中のネット・インがフォルトにな

らないことは、卓球やテニスと同じですが、バドミントンでは、サーブのときでも、ネット・インをフォルトやレットにしません。卓球などと違いますね。

ネットに当たってから、打者側のコートへ落ちるときは、地面に向かって落ちはじめた瞬間にフォルトになります。これも卓球やテニスと違う点です。

問81 「ネットを通る」ってどんな場合ですか。

答 ネットの網目を抜けることです。また、ポストとネットの間によく見られる三日月形の隙間を抜けることもありますよね。

これは、正しく1・6マから1・9マの網目のネットを正しく、ポストに張れば、起きるはずのないことです。第3章のネットのところでお話したことを思い出して下さい。

問82 次は「オーバー・ネット」ですね。

答 第14条第6項ですが、解説2にも関連事項が述べられています。それについては後でお話しますが、ここでは「オーバー・ザ・ネット」は「インターフェヤー」の一種であることを見て下さい。

「インプレー」のシャトルを、ネットを越える前に打ち返えしたとき（しかしそ

のストロークでならばネットを越えてラケットでシャトルを追ってもよい）

—第14条第6項—

図を見て下さい。（A）がフォルトで（C）はフォルトでないことはよくわかりますね。（B）はどうでしょうか。これはフォルトではないのです。そして、（D）もフォルトではないのです。規則書の言葉を綿密に読めばわかります。

昭和37年の夏、ジャカルタで行なわれた第5回アジア競技大会で、バドミントンの審判について、タイ国選手が不満を表明して、団体戦の決勝のとき退場し、個人戦にはとうとう出場しないという不祥事が起きました。タイ国選手が正しかったのかインドネシアの主審が正しかったのか、神ならぬ身にはわかりませんが、問題の焦点はこの「オーバー・ザ・ネット」の判定に

トラブルの実例をお寄せ下さい

愛読者の皆さんにお願い

日本協会の審判委員会では、審判の講習、検定などの教材にするため、現実にあった判定上のトラブルや誤審の例を集めています。

読者の皆さんが実地に体験した、この種の例や、判断に迷ったこと、いまだに納得できない

あったということです。

（B）の場合の見解についてのくいちがいも知れませんか。

問83 オーバー・ザ・ネットと次のタッチ・ザ・ネットとは、ネットを越えるのとふれるのとの違いですね。

答 そうです。しかしそのほかに、細かいことのようにですが一寸違う点があります。まず規則の条文を読んでみましょう。

「インプレー」のとき、プレーヤーのラケット、身体、着衣がネットやそれを支えるものにふれたとき。

—第14条第7項—

わかりましたか。オーバー・ザ・ネットの場合には、ラケットを問題にしていますね。そして、解説によって、身体も問題にしています。タッチ・ザ・ネットの方は、そのほかに着衣もふれてはならないとしています。

ことなど、なんでもけっこうです

から、具体的に、できるだけくわしく書いてお寄せ下さい。あて先は「東京都渋谷区神南一ノ一、岸記念体育会館内、日本バドミントン協会内、審判委員会」です。

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

松本製網株式会社	大阪府八尾市福万寺町4-72	TEL 0729 (2) 3217
	◎ 20/12 倉敷ビニロン (MATVMOTO)	
鐘屋産業株式会社	東京都文京区本郷3-17-2	TEL 03 (811) 3773
	◎ ナイロン A級	◎ 綿 B級
(株) 寺西喜商店	大阪府八尾市福万寺町4-31	TEL 0729 (2) 3210
	◎ バドミントン・ネット C検定	
(株) ジイティヤング	本社 大阪市南区東平野町2-25	
	支社 東京都墨田区本所1-36-2	TEL 03 (623) 7155
	◎ 20番手 12本クレモナビニロンテトロン引紐	
	◎ 20番手 12本綿 テトロン引紐	
	◎ 20番手 12本綿 クレモナローブ引紐	
ミセキセット製作所	埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4	TEL 04804 (2) 0379
	◎ ミセキ VA	◎ ミセキ A

各地の試合

男子複は森・河田組

青年の部、女子は大橋

◆第23回中部日本選手権(11月1・2日・金沢)

少年・少女、青年男女、成年、壮年の各個人戦が行なわれた。少年は北陸勢が強く、シングルスは西村(富山)が優勝した。山・竹村(石川)が優勝した。混合ダブルスは、全日本出場ベアの飯田・清水組のものとなった。

青年男子のダブルスは森・河田組(岐阜) 青年女子シングルスは東海ナンバー・ワンの大橋(愛知)が栄冠を得た。

男子は日田市役所、女子は住金小倉に栄冠

◆第16回全九州実業団・社会人選手権(11月22・23日・久留米)

実業団は男女の団体、社会人は個人戦で争われた。

実業団の男子は、日田市役所(大分)が三菱重工長崎をストレートで破り優勝、女子は住金小倉が日田市役所をしりぞけて栄冠を得た。

社会人の青年男子は熊本教員・工藤が、女子シングルスは長崎の全日本組、徳永と柿本がせり合ったすえ、柿本が優勝した。この二人はペアを組んでダブルスをモノにした。

男子は壮年の上に、老年の

部まで行なわれ、日本協会の指導委員長・伊藤選手がシングルス優勝をとげた。

高校の部、男子は備南女子は山陽が圧勝

◆45年度岡山県秋季選手権

(10月31・11月1日・西大寺高)

45年度岡山県秋季総合選手権(12月6日・西大寺高)

秋季選手権は高校男女、一般男女に分けての個人戦が行なわれた。

高校男子は備南高が強く、シングルスは藤原、ダブルスは田村・久保と三冠を手にした。同女子は山陽高が単復のベスト4を独占した。一般男子は岡山大勢同士が争い、山田が優勝、ダブルスは上野・芳上組(三井造船)がトップとなった。

表紙

ルディ・ハルトノ



日本バドミントン協会創立20周年の全日本総合選手権で初来日した。66年十二月のこと。このときは西野(前ト杯選手)にベスト4で敗れたが、それ以後、日本勢で、このエースに勝ったものはいない。

昨年のト杯戦(二月京都)で日本をさんざん苦しめたのは、皆さんもご存知のとおり。全英選手権にも二連勝、実質的な世

総合選手権の男子ダブルスでも、上野・芳上組が連続の優勝をとげた。また女子シングルスも石田(山陽高)が秋季選手権の高校女子についてタイトルを獲得。

一部は菊地・伊藤組がタイトルリストに

◆45年度仙台市秋季混合選手

次号予告

年末から、多くの競技会が続いたため「押せ押せ」になってしまった。

次号は、競技としては新年の全日本女子チャンピオンズ・トーナメント、二月の社会人×学生対抗をとりあげる。

ドネシアの国宝的存在であることは、本号の板垣コーチ「インドネシアの実情」でも、おわかりのことと思うが、出身は華僑(中国)である。

初来日のころは将来の希望を「ナショナル・チームの女子選手のコーチ」などと述べ、関係者をケムにまいた。しかし、いまはどうやらパイロット志願らしい。21歳、マッチ収集が趣味。

各地の試合

権(12月6日・レジャーセンター)

一部は菊地(TGク)伊藤(宮城女子)が、二部は安斉(TGク)中山(仙台女商OG)がそれぞれタイトルをとった。

(おことわり) このページの記銀詳報は、巻末の「レコード欄」にあります。

二つとも、競技会としては小さな規模だが、ユ杯・ト杯の候補ともいべきトップ級の選手同士のせり合い。日本バドミントン協会は、こうした競技会を通じ、ファンを拡大し、選手と一般愛好者の交流をはかりたいということ、いろいろ工夫している。その小さなエピソードも盛りこみたい。

その他、スポーツ少年団、トレーナー制度、ママさんバドミントン、アマ問題等も、目下、取材中なので、できたものからご紹介したい。

なお、日本協会は二月の総会で役員を改選、新しい事業を決定したので、これについてお知らせする。

特別のよみものとしては、台湾に遠征した高木紀子選手のルポがある。

kawasaki racket

ラケットの名門カワサキ

長い歴史と抜群の技術は世界が認めるどころ、にぎった瞬間にわかるバランスのよさ、その確かな手ごたえ……もちろんチャンピオンも使っています。

日本バドミントン協会推奨



**カワサキ
ラケット**

45年度岡山県秋季選手権大会

(10月31日～11月1日・西大寺高校体育館)

高校男子シングルス

準決勝

松井(備南) 2-0 藤長(水工)
藤原(備南) 2-0 永井(水工)

決勝

藤原 2 (1515) 8 9 0 松井

高校男子ダブルス

準決勝

田村(備南) 2-0 永井(水工)
久保村(備南) 2-0 元田(倉工)
松井(備南) 2-1 川相(倉工)

決勝

久田 保村 2 (15917) 13 15 14 1 藤井原

高校女子シングルス

準決勝

石田(山陽) 2-0 林(山陽)
剛迫(山陽) 2-0 吉田(山陽)

決勝

石田 2 (1111) 4 7 0 剛迫

高校女子ダブルス

準決勝

林(山陽) 2-0 吉田(山陽)
平田(山陽) 2-0 寺見(山陽)
松尾(山陽) 2-0 多賀(中陽)
三宅(山陽) 2-0 川上(中陽)

決勝

平林 田 2 (1515) 10 2 0 松宅尾

一般男子シングルス

準決勝

山田(岡大) 2-1 芳上(三井)
高木(岡大) 2-0 三木(岡大)

決勝

山田 2 (1515) 5 9 15 1 高木

一般男子ダブルス

準決勝

上野(三井) 2-0 高木(岡大)
芳上(三井) 2-0 山田(岡大)
毛利(クラ) 2-0 嘉村(岡大)
小松(ブ) 2-0 野崎(岡大)

決勝

上野 2 (1515) 3 9 0 小松利

一般女子シングルス

準決勝

児玉(日産) 2-0 糸(岡大)
光畑(倉レ) 2-0 安福(岡大)

決勝

児玉 2 (1111) 10 12 1 光畑

一般女子ダブルス

準決勝

岩崎(岡大) 2-1 児玉(クラブ)
丸山(岡大) 2-1 光畑(クラブ)
安福(岡大) 2-1 塩見(岡大)
糸(岡大) 2-1 戸田(岡大)

決勝

安福 2 (1515) 7 12 0 丸岩山崎

高等学校体育館

男子シングルス

準決勝

三宅(成羽高教) 2-0 芳上(三井)
高木(岡大) 2-1 上野(三井)

決勝

三宅 2 (1515) 7 5 0 高木

男子ダブルス

準決勝

上野(三井) 2-0 森口(岡大)
芳上(三井) 2-0 嘉村(岡大)
三宅、柳本 2-0 小松、藤井(市教委)
藤田(中教)

決勝

上野 2 (1515) 2 8 0 柳本宅

女子シングルス

準決勝

児玉(日産) 2-1 吉田(山陽)
石田(山陽) 2-1 光畑(クラレ)

決勝

石田 2 (1111) 2 11 1 児玉

女子ダブルス

準決勝

吉田(山陽) 2-0 平田(山陽)
石田(山陽) 2-0 松尾(山陽)
林(山陽) 2-0 児玉(日産)
剛迫(山陽) 2-0 木村(中銀)

決勝

石吉 田 2 (1515) 11 7 17 1 剛迫

45年度仙台市秋季混合選手権大会

(12月6日・仙台レジャースセンター)

一部

準決勝

山並、田中 2-0 加藤、高野
トキワグ・(TGOB) 二女
菊地、伊藤 2-1 加藤、川島
宮城女子

決勝

菊地・伊藤 2-1 山並・田中
▼コンソレーション決勝
卑地、鈴木 2-0 川内、藤村
宮城女子

二部

準決勝

千葉、石田 2-1 湯村、山田
(五十嵐商) (運産局・宮)
店・仙女商(OG) 城女大
安斎、中山 2-0 古橋、鎌田
女商(OG) (三浦商店・宮城女子)

決勝

安斎・中山 2-1 千葉・石田
▼コンソレーション決勝
後藤、志田 2-0 佐藤、西堀
女商(OG) (育英・OB・郵政局)

第23回中部日本選手権大会

(11月1・2日・金沢市)

少年シングルス

準決勝

飯野(新潟) 2-1 青山(石川)
西村(富山) 2-0 加藤(愛知)

決勝

飯野(新潟) 2-1 青山(石川)
西村(富山) 2-0 加藤(愛知)

少年ダブルス

準決勝

飯田、清水 2-0 長谷、寺崎
(富山) (福井)
橋本、牛島 2-1 森野、日下部
(愛知) (静岡)

決勝

飯田、清水 2-0 長谷、寺崎
(富山) (福井)
橋本、牛島 2-1 森野、日下部
(愛知) (静岡)

45年度岡山県秋季選手権大会

(10月31日～11月1日・西大寺高校体育館)

高校男子シングルス

準決勝

青山、竹村 2-0 西村、新村
(石川) (富山)
松島、森田 2-1 堀口、飯野
(富山) (新潟)

決勝

青山 2 (1815) 16 4 0 森田島

高校男子ダブルス

準決勝

森田(岐阜) 2-0 西山(愛知)
島田(富山) 2-0 深瀬(静岡)

決勝

島田 2 (12612) 11 11 11 1 森田

高校女子シングルス

準決勝

森田、川崎 2-1 旧井、本田
(岐阜) (岐阜)
嶋、石川 2-0 深瀬、石川
(静岡) (静岡)

決勝

嶋 2 (1515) 4 3 0 森田

高校女子ダブルス

準決勝

飯田、清水 2-0 長谷、寺崎
(富山) (福井)
橋本、牛島 2-1 森野、日下部
(愛知) (静岡)

決勝

飯田、清水 2-0 長谷、寺崎
(富山) (福井)
橋本、牛島 2-1 森野、日下部
(愛知) (静岡)

飯田 2 (1517 414) 0 橋本島本	清 水 2 (1517 414) 0 橋本島本	◆青年男子シングルス	牛島 (愛知) 2-0 伊村 (愛知)	川上 (富山) キケン樋口 (愛知)	川 上 2 (1516 618) 1 牛島	◆青年男子ダブルス	松下山本 2-0 伊村、樋口 (石川)	森、河田 2-0 河村、関村 (岐阜)	河田 2 (1815 165) 0 松本下	◆青年女子シングルス	辻田 (愛知) 2-1 橋本 (愛知)	大橋 (愛知) 2-0 小沢 (愛知)	大 橋 2 (1111 07) 0 辻田	◆青年女子ダブルス	小沢、橋本 2-0 大橋、辻田 (愛知)	工藤、紺野 2-1 中村、富田 (愛知)	橋本 2 (1515 1312) 0 紺工野藤	◆成年シングルス
--------------------------	---------------------------	------------	---------------------	--------------------	-------------------------	-----------	---------------------	---------------------	-------------------------	------------	---------------------	---------------------	------------------------	-----------	----------------------	----------------------	---------------------------	----------

◆準決勝	奥村 (石川) 2-0 中田 (静岡)	大野 (富山) 2-0 畑 (福井)	奥村 2 (1515 312) 0 大野	◆成年ダブルス	大野、堀 2-0 中田、七沢 (富山)	不破、畔田 2-1 糸谷、山本 (富山)	◆準決勝	堀 2 (1515 53) 0 畔田	◆壮年シングルス	畑 (福井) 2-0 井沢 (愛知)	後藤 (愛知) 2-0 中村 (愛知)	畑 2 (1515 06) 0 後藤	◆壮年ダブルス	後藤、井沢 2-0 高木、菊川 (愛知)	西野、中村 2-0 江尻、内多 (愛知)	井沢 2 (1518 515) 0 西村	後藤 2 (1518 515) 0 西村	手権大会 (11月22~23日・石橋文化センター体育館・久留米大商学部体育館)
------	---------------------	--------------------	------------------------	---------	---------------------	----------------------	------	----------------------	----------	--------------------	---------------------	----------------------	---------	----------------------	----------------------	------------------------	------------------------	---

◆実業団男子団体戦	日田市役所 3-0 山下 K・K	三菱重工 3-1 北九州市役所	長崎造船所 3-1 北九州市役所	◆三位決定戦	山下 K・K 3-1 北九州市役所	日田市役所 4-0 三菱重工	◆実業団女子団体戦	◆一回戦	住友金属工 3-0 福岡市役所	小倉製作所 3-0 福岡市役所	日田市役所 3-0 宮崎市役所	◆三位決定戦	宮崎市役所 2-0 福岡市役所	◆準決勝	住友金属工 2-0 日田市役所	小倉製作所 2-0 日田市役所	◆青年シングルス	佐藤 (日田) 2-1 平野 (長崎)	工藤 (熊本) 2-0 宮原 (日田)	◆三位決定戦	宮原 2-0 平野	工藤 2-0 佐藤	◆青年ダブルス	山口、平野 2-0 中野、辻 (造船)	佐藤、宮原 2-0 工藤、中村 (日田)	◆三位決定戦
-----------	------------------	-----------------	------------------	--------	-------------------	----------------	-----------	------	-----------------	-----------------	-----------------	--------	-----------------	------	-----------------	-----------------	----------	---------------------	---------------------	--------	-----------	-----------	---------	---------------------	----------------------	--------

工藤・中村 2-0 中野・辻	◆準決勝	佐藤・宮原 2-0 山口・平野	◆成年シングルス	西田 (熊本) 2-0 松本 (宮崎)	南 (熊本) 2-0 片山 (住金)	◆三位決定戦	片山 2-1 松本	◆決勝	西田 2-0 南	◆成年ダブルス	◆一回戦	南、西田 2-0 岸本、片山 (熊本)	南、池田 2-0 宮本、細川 (北九)	◆三位決定戦	片山・岸本 2-0 細川・宮本	◆準決勝	南・西田 2-0 池田	◆壮年シングルス	中島 (長崎) 2-0 古賀 (久市)	弥吉 (月星) キケン筒井 (化成)	◆三位決定戦	古賀 キケン 筒井	◆決勝	中島 2-0 弥吉	◆壮年ダブルス	伊藤、松崎 2-0 古賀、弥吉 (熊本)	◆老年シングルス
----------------	------	-----------------	----------	---------------------	--------------------	--------	-----------	-----	----------	---------	------	---------------------	---------------------	--------	-----------------	------	-------------	----------	---------------------	--------------------	--------	-----------	-----	-----------	---------	----------------------	----------

◆決勝	伊藤 (熊本) 2-0 中野 (中津)	◆老年ダブルス	岡部、田口 2-0 中野、田中 (西鉄)	◆女子シングルス	◆準決勝	徳永 (長崎) 2-0 竹田 (化成)	柿本 (長崎) 2-0 丸山 (住金)	◆三位決定戦	丸山 2-0 竹田	◆決勝	徳永 2-1 柿本	◆女子ダブルス	◆準決勝	丸山、三沢 2-0 坂本、春武 (住金)	徳永、柿本 2-0 鈴木、吉加江 (長崎)	◆三位決定戦	春武・坂本 2-0 鈴木・吉加江	◆決勝	徳永・柿本 2-0 丸山・三沢	◆混合ダブルス	◆準決勝	春武、春武 2-0 平野、徳永 (日田)	山口、柿本 2-0 宮原、坂本 (長崎)	◆三位決定戦	宮原・坂本 2-0 平野・徳永	◆決勝	山口・柿本 2-1 春武・春武
-----	---------------------	---------	----------------------	----------	------	---------------------	---------------------	--------	-----------	-----	-----------	---------	------	----------------------	-----------------------	--------	------------------	-----	-----------------	---------	------	----------------------	----------------------	--------	-----------------	-----	-----------------

☆Japan Won Three Gold Medals in the 6th Asian Games badminton championship tournament held in Bangkok, Thailand from 9 to 20 of Dec. '70. Ten nations took part in the tournament.

Japan showed its supremacy over ladies division. In the team event, Japanese women defeated the powerful Indonesian by a narrow margin of 3-2 in the semi-final, at the end of a desperate 45 minutes battle between Miss. Aizawa and Miss. Theresia.

In this final game of the final and fifth match, Miss. Theresia grasped the match point by 10-9. But Miss. Aizawa miraculously smashed her way collecting 4 points in succession to upset the match, when Miss. Theresia netted her forehand receive.

Japan KOed the host country Thailand by the score of 4-1 in the final.

Miss. Hiroe Yuki, '69 All England singles champion, gained victory in the same event. Miss. Minarni, an Indonesian queen of badminton, gave up her match against Miss. Yuki in the semi-final because of a leg cramp on the half way of the second game.

In women's doubles, Miss. Aizawa, pairing with Miss. Takenaka, easily won the title beating the Indonesian Miss. Nurhaena & Miss. Retono. The Japanese pair is the semi-finalist in the '70 All England championship.

So far as men's division are concerned, Japan was the third nation. In this part, Indonesia split the gold medals with Malaysia.

Indonesian snatched the team event defeating Thailand in the final. But, Malaysian succeeded in its revenge against Indonesia, when P. Gunalan took hold of both singles and doubles titles. Ng Boon Bee was the glorified partner in the doubles.

☆Badminton has been popular among the Self Defense Forces (meaning Armed forces in Japan).

Affiliated members with NBA (Nippon Badminton Association) are only 18,000, but the people who enjoy badminton play in the SDF are said to be more than 35,000 including plain-clothes personnel. They have their own organization and hold All SDF championship tournament annually.

The reason is so simple: badminton is easy to handle if you never mind to be more skillful, needs no large space for play, and very interesting because it has a varied speed of a flight.

The SDF has special training center where several kind of sports, like modern pentathlon, biathlon, weight-lifting, wrestling, boxing has been taken for the purpose of sending Olympic athletes in such a field.

編集後記

最近、しきりに読者から「よ
ものをふやせ」の要望が多い。
当然の話である。

その多くは、選手の体験談、
自伝、人となり、といったもの
に集中している。本誌でも、で
きるだけ、こうした要望を実現
するよう、努力していくつもり
だが、人手と時間の関係もあり、
いつから、なにをはじめま
と、ここで断言できないのが残念。
しばらくお待ち下さい。

本号の協力スタッフ

／表紙撮影・フォート・キンモ
ト／表紙レイアウト・松井亮磨
／写真・フォート・キンモト、
山田真市、片岡輝明ほか
／カット・おおば比呂司、芦間
登美子、秦 浩

【バドミントン界】 第19号

昭和46年2月25日印刷
昭和46年3月1日発行

発行所 編集兼発行人 川 端 昇 市
東京都渋谷区神南一の一の一

日本バドミントン協会
岸記念体育会館内

電話 四六七・三一一(内線)二五二
四六七・七〇九五(直通)

郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三

印刷所 東京都中央区八丁堀二の八の二
有限会社 和田印刷所

定価 一部 百円

南国の讃歌 〈アジア大会特集〉 つづき



こんにちは、世界のエース、ハルトノと小島（フォート・キシモト提供）



男子の熱戦を見守る女子陣
写真左上には応援の日本選手団
本部役員の方も見えている

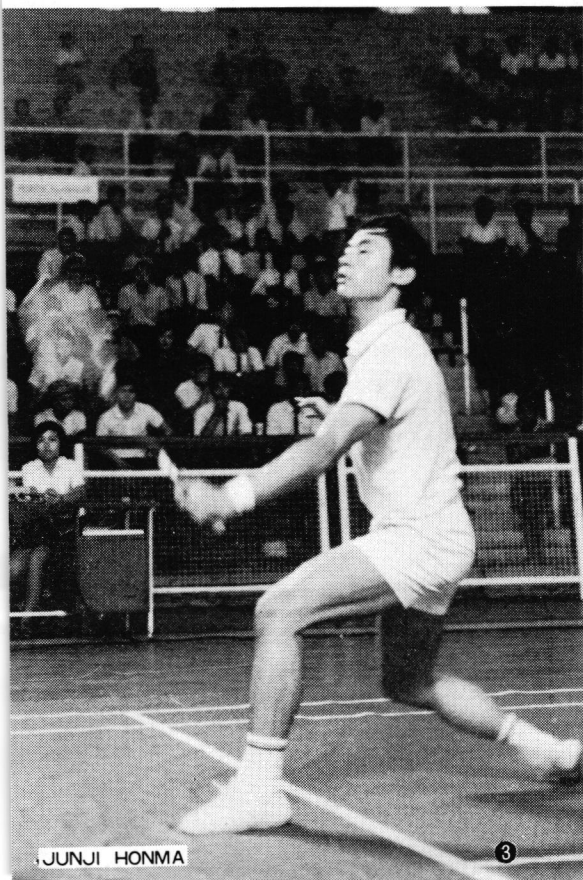
7



HIROE YUKI

1

役たち



JUNJI HONMA

3



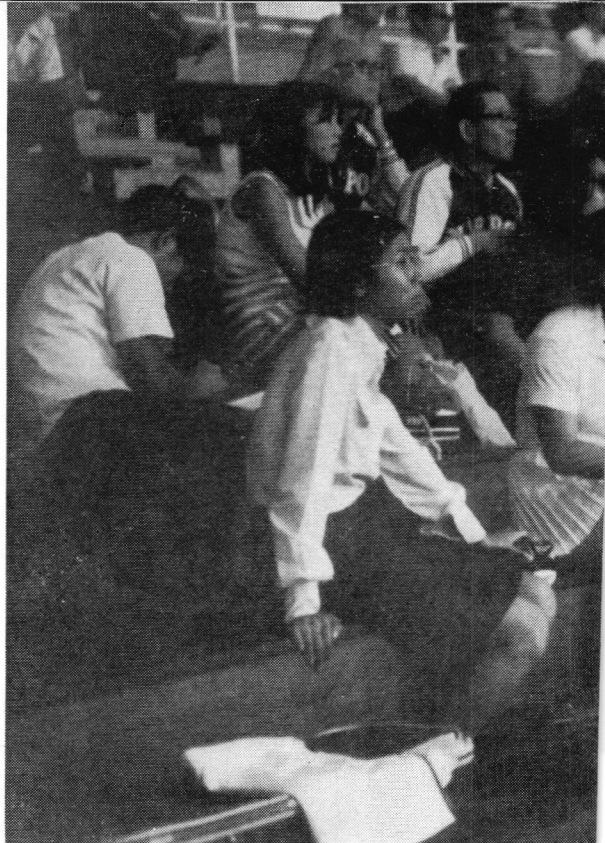
MULJADI

2



UTAMI DEWI

⑥



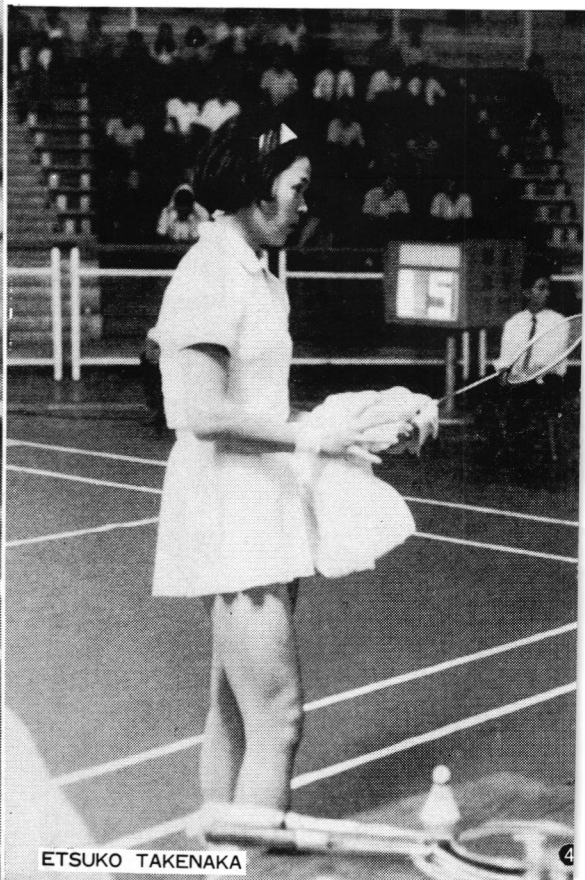
写真提供
①⑥
フォート・キシモト
⑦
片岡輝明

大会



RUDY HARTONO & INDRA GUNAWAN

⑤



ETSUKO TAKENAKA

④

YONEYAMA RACKET

NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに

アルミシャフト採用!!

軽い

— アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて $\frac{1}{3}$ に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い

— 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

弾む

— 木製、スチール製に比較して柔軟性、反発力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。



株式
会社

ヨネヤマラケット

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。



人間は何かを見失っているようです

スコール

●schol(ギリシア語)●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源一岩波哲学辞典より

●古代ギリシア人はスコールをすべての文化の根源と考えていた●スコールは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコールとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコール
テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコールを拡大するテイジン

天然資源開発 アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業 世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業 豊かな生活環境、新しい生活行動パターンを創造。ファッションから産業資材まで
海外事業 人類の衣生活充実。世界10余ヶ国へ進出。ポリエステルなどの生産技術で各国に協力

情報産業 知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業 未来の生活を支えるエンジニアリング、プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業 健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業 人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで